



# 校友会だより

第45号



2022年(令和4年)

中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2

# SAPIXサピックスには 合格のメソッドがあります。



『なぜ?』から生まれる『討論式授業』

～子どもたちとのコミュニケーションを重視した授業スタイル～

オリジナル教材

～学ぶ喜びに直結する様々な工夫～



授業は週1～3日

～小学校生活や習い事との両立も大丈夫～

復習中心の学習法

～思考に広がりを持たせるらせん状カリキュラム～

※入室を希望されるお子さま、各種特訓・講習などの受講を希望されるお子さまには、「入室テスト」を受けていただいております。お申し込み等の詳細はホームページをご確認ください。

サピックス

検索

[www.sapix.com](http://www.sapix.com)

中学  
受験

SAPIXサピックス

小学部

☎0120-3759-50

■受付時間 / 日曜・祝日をのぞく14:00～17:00  
SAPIX YOZEMI GROUP



明治座

☎ 03 (3660) 3939  
中央区日本橋浜町2-31-1

お切符のお求めは…

明治座チケットセンター  
03-3666-6666  
(予約時間 AM.10:00～PM.5:00)

または…

明治座ホームページ上で、  
チケットのご予約を承っております

インターネット予約「席とりくん」  
詳細は、<http://www.meijiza.co.jp> をご覧ください。

感動をクリエイイトする劇空間。



江戸総鎮守  
神田明神

<http://www.kandamyojin.or.jp/>

# 今年は久松小学校 創立百五十周年の年です。

昭和五十三年卒業

校友会及び運営委員会会長

川口 修一郎

校友会の会長職を拝命しています川口修一郎です。いつもお世話になりありがとうございます。私は役員上で会長と言うことになっていますが、校友会の主役は校友である、皆さまお一人お一人であり、皆さまが懐かしい恩師や仲間と親交を深めるために必要な名簿などを管理する事務局的な立場であると思っています。従ってリーダーシップの発揮の仕方でも会社のようなタテのリーダーシップではなく、お願いベースのヨコのリーダーシップを心掛けて参る所存です。

三年前の五月の校友会は年度幹事さんの中から選出された校友会実行委員長さんのもと、久々に母校校庭で行い、恩師、校友、新中学一年生だけでなく現役の小学生、幼稚園児、保護者御家族にも声をお掛けしてオープンハウスの校友会を開催しました。運営にあたり、現教職員主事さんの方々、年度幹事の方々、PTAの役員の方々、久松子ども応援

会（パパ会）の方々、日本橋五の部地区委員会の方々、日本橋中学校プラスバンドの方々、多くの皆様のご協力を賜り開催する事が出来ました事にあらためて感謝をしたいと思っています。

二年前はコロナの影響により残念ながら、校友会総会は中止となりました。昨年の校友会こそは三年前と同じ運営方法でより磨きをかけてここに来れば懐かしい皆にお会いすることが出来る現役から大先輩の皆様が、母校を中心に集まれる楽しい、懐かしい、暖かい会を目指せていけたらと思っていました。コロナの影響は長引いており、一度は二年前同様中止と判断しましたが、昨年度校友会実行委員長の杉山寿英さんの提案により、ズーム校友会総会をやりましょうという事になりました。実は、校友会の会議も杉山さんの提案でズームで会議を重ねて準備されました。校友会当日は日本航空ロンドン支店長である杉山さんはロンドンから参加していました。杉山さんがロンドンから総会司会、ディレクターを兼ねてくださり、最新の校舎内撮影ビデオを流したり、各年度幹事さんの工夫を凝らしたコーナーがあったりと初めてとしては大変よく出来たオンライン校友会を行うことが出

来ました。この事を通してわかった事は、例年の校友会の一部分をオンラインで行うことにより、当日参加できた交友だけでなく、日本中、世界中の校友ともひと時を共有できるという事です。杉山さんの話によるとロンドンの日本大使館に久松の卒業生が二人もおられるとの事でした。

この原稿を書いている二月現在は大変なコロナ禍にありますが、今年こそはコロナも収まり通常の校友会総会が開催され、昨年一昨年も節目として参加できなかった、新中学校一年生の会員の皆様、二十歳の会員の皆様、ホームカミングの会員の皆様に歓迎ができたらと思っています。

最後に本年創立百五十周年という大変大きな節目の年を迎える母校久松小学校は一年間を通して周年行事が行われます。前回は式典の他にパレードなど、久松小学校のホームページの周年行事というところに詳しく記録されています。校友会の我々一同としては、母校の御祝いの年に、七千人の会員の総力を上げて周年行事をバックアップしていけたらと思っています。いろいろな課題はありますが、会員の皆様の御教導を賜れば幸いです。

# 開校一五〇周年記念の年

第二十二代

久松小学校校長

植村 洋司

若葉・青葉の色も一段と濃くなり、今年も久松校友会総会の季節となりました。校友会の皆様には、日頃より久松の子どもたちのために様々な形でお力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では毎年約五十名ずつ児童数が増え、全校九百名程となり、活力ある久松となっております。

本校の教育目標は「強く、正しく、豊かに」です。このことを、次のように捉えています。

- 心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心をもち、自らよりよい成長を目指す。

- ものごとを正しくみつめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。
- 豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心をもち、共生社会の担い手となる。

この教育目標実現のための学校経営の基本理念として、①楽しさのある学校、②厳しさのある学校、③信頼感のある学校の三つを挙げます。

さて、本校は、令和二・三年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受け、研究主題「豊かな心と健やかな体の育成」教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実」の下、教職員一同研究を進め、昨年十二月十日（金）に研究発表会を開催いたしました。コロナ禍でもあり、ハイブリッドで実施し、区内外から参集しての参加約一四〇名、オンラインでの参加約二〇〇名の多くの先生方に御参加いただきました。これまで本校が築いてきた土台の上に、新たな視点を盛り込み、実践的な研究を積み上げてきた成果を発表することができました。

昨今、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染状況から、保護者の皆様と連携し、様々工夫してきております。一月、加速度的な新規感染者の急増の折、実施予定であった学校公開について、初めてオンラインによる学校公開を行いました。二・四学級を三分割し、一時間の授業をオンラインで参観していただきました。授業の様子は、PTA運営を中心に保護者の御協力を得て、撮影し配信いたしました。改めて、久松小の保護者の方々の学校を応援してくださる熱い思いと実行力を痛感し、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、いよいよ今年は本校開校一五〇周

年・久松幼稚園八〇周年の記念すべき年を迎えました。学校（園）・家庭・地域が一体となり、心に残る一年にしていきたいと思っております。周年行事において大切にしたいことは次の三つです。

- 一五〇周年・八〇周年の大きな節目にあたり、学校（園）の歴史と伝統を振り返ることを通して、現在の中央区立久松小学校・久松幼稚園を築き上げてきた方々に対する感謝の気持ちを深める。《感謝》

- 一五〇周年・八〇周年を祝う様々な事業や行事に積極的に参加することによって、学校（園）を愛する気持ちを高める。《愛校心》

- 未来に向けて、学校（園）・家庭・地域・校友の皆様の連帯感を高め、絆を深める。《連帯感・絆》

校友会の皆様を支えていただきながら、久松の子どもたちのために教職員一同力を合わせて、力を尽くしてまいります。

結びに久松の教育の一層の充実のため、そして、一五〇周年の素晴らしい記念すべき年を迎え、引き続きの御支援・御協力をお願いするとともに、校友会の益々の御発展をお祈りいたします。

年度恩師あいさつ

## 私の「海外派遣」と 係わった学年です

昭和五十七年卒  
一組担任 新田 重信

卒業の春から四十年、年月の流れが早く、君たちは、現在の日本を力強く支えている存在ですね。私は支えられている現状です。

私は久松に四年間しかいませんでした。卒業生は十回以上出していますが、久松では唯一の卒業生になります。伝統ある厳肅な卒業式、保護者と一緒の記念写真等、意義ある場を体験できたことすばらしい思い出です。

夏の館山臨海学校、そして小諸、多くの保護者の協力で楽しく実施されていたことを思い出されます。

しかしなんと言っても、この学年の時に私が文部省の「教員海外派遣」でアメ

リカ、カナダ視察団に選ばれたことです。

当時東京都教育委員会関連の研究に係わっていたことや当時の桜井校長先生の力添えがあつたのかなと思います。

でも二学期早々十六日間も教室を空けることになりました。

行くべきか、中止すべきか苦慮しました。ありがたい派遣ですが、学年の先生とも相談しました。「心配なく行って来なさい、子どもたちのことは引き受けるから」と、二組米山倫子先生、三組多賀義先生、四組千葉家門先生です。一組を三つに分けて面倒を見ることに。悩んだ末行くことを決めました。

学年の先生には感謝です。学年以外の先生にもお世話になっていきます。今考えてみても感謝です。「百聞は一見に如かず」のことわざ、書物や地図で得た知識も現地を調査して初めて身につく。さすがにアメリカはとてつもなく広大で美しいところは美しく、見にくいところは見

にくく。でも多くの学校を見学したなかで、右手を胸に当て目を閉じて、教室のコーナーに掲げてある星条旗を囲んで、「郷土、地域の繁栄と国の発展を祈り、地域と国のため役立つ人になります」と誓うそうだ。日課として実施しているとのこと。多民族国家の融和を願っていることか。わが国でも国際試合の折に見られませぬ。

出発前ある先生から「アメリカで世界地図を見る」ことを言われた。地図売り場で調べると「びつくり」、アメリカ大陸が中央にドカンと、日本は端の方に、日本列島が中央にあるのがあたりまえと思っていたので、このことで物の見方を多面的に見ることの大切さを気づかされました。

久松小学校と校友会の益々のご発展を祈念いたします。

コロナ禍五月の校友会総会が開催されることを祈っています。

## 豊かな人生を一日一日大切に生きる

昭和五十七年卒  
二組担任 米山 倫子

昭和五十七年に卒業した皆さんは、卒業以来もう四十年。中堅といわれる年代となり、それぞれの立場で社会に貢献していると思われませんが、コロナ禍で、オンラインやテレワーク、活動の制限など生活面にも影響があったことでしょう。

近況ということですが、私は単調な自粛生活をしておりました。そんな中、令和三年暮に二年振りに「習志野第九演奏会」で歌いました。オーケストラも縮小され、合唱団も三分の一の百人程で、マスク着用など様々な制約のある演奏会でしたが、例年以上の感動を覚えました。第四楽章はシラーの詩ですが、人類愛と素晴らしさと喜びを歌っています。コロナ禍の今、全世界に響けと歌いました。今年最後の第九を歌えるよう、歌うために必要な筋肉や足腰

を鍛え、体力を維持する努力をしていこうと思っています。

その他、ボランテニアですが、家の近くの学校に年間を通して、季節の花など生けておられます。少しでも豊かな気持ちになつてもらえればと始めたことですが、元気な子供達と「ありがとう」という言葉に支えられ続けております。

多くの人々に支えられ、この歳まで生きて来られたことに感謝し、残る人生を一日一日大切に生きようと思う此の頃です。

久し振りに卒業アルバムを開きました。写真に写る一人一人の笑顔がありました。卒業に向かっただの笑顔でしょうか。中学への希望に満ちた笑顔でしょうか。写真を見ていると担任したばかりの頃のこと、学芸会での記憶力や表現力のすばらしさ、友達を思うやさしさ、臨海学園や修学旅行の様子、水泳やリレーなど頑張る姿、授業中のこと等、その時々表情が思い出されます。

久松小学校で皆さんと出会ったことは、忘れ難い思い出であり、人生の糧です。

今や人生百年時代。皆さんは、人生の半ばに來ていますが、今、どんな顔になつているでしょうか。各々自分の選んだ道を進み、社会の中心となって活動していることと思います。責任者としての顔、後輩を育てる顔、親としての顔、仕事に熱中する顔等々様々な顔があると思いますが。情報に流されず、正しい判断力と行動力で、充実した日々を笑顔で過ごしてください。

考え方や生き方は人それぞれ違いますが、全ての人に言えることは、人間としての尊厳をもって生きることです。生命を大切に。皆さんが、健康で豊かな人生を一日一日大切に生きていくことを願っています。

当番幹事さんご苦労様です。他に類を見ない久松小学校校友会を大切にしてくださり。

久松小学校校友会の益々のご発展をお祈りいたします。

## 澁刺と爽やかに

昭和五十七年卒

三組担任

多賀 義治

久松小学校校友会総会おめでとうございます。整った組織、強力で熱心な役員、母校愛に満ちた会員、それらの総合力によって、毎年盛大な総会が開催されることに敬服し、久松の一教員であったことに喜びを感じています。

数回六年生を担当したことで、これまで何度も校友会だよりに書く機会を与えていただき、思い出等、記してきました。今回は、元気に八十五歳を生かしてもらっている自分が年齢を重ねてきた中で、日々考えてきたこと、心がけてきたことなど、いくつか紹介したいと思います（少しでも参考になれば……）。

今日という日

これまでの人生でもっとも体験を積んだ日  
これからの人生でもっとも若い日  
今日という日を澁刺と生きたい

言うまでもなく、人生は時間のトータル、今日という日の積み重ねです。今日をよりよく生きなければもったいない気がします。充実した人生は時間との付き合い次第だと思ふのです。一日一時間を心豊かに過ごしていきたいものです。

人生を豊かに生きる秘訣は、常に「感謝の心」をもって過ごしていくことだと強く思うようになりました。そのことで、当たり前すぎて見えなかった多くの恵みに気づくようになります。

次に悩んだ時、迷ったときのことです。私は「見方・考え方を変えてみる」ということを心がけます。あの美しい富士山も、眺める場所・地点を変えて見ることで、その姿・形が違って見えます。人の見方・評価もそうです。その人のいい面が見える地点に立ちたいものです。そんな見方・考え方をするので、自分の心が穏やかになり、他人を責めることも少なくなります。

行動で言うとは「歩くこと」が何よりもいいストレスの解消法になって

います。体力保持・心の安定によく歩きます。

次に私が「心力」をつけるために試みていることは「元気をくれる言葉」を活用することです。本を読んだり、自分で作ったりにして時々目を通します。「言葉は心を育てる」と言えそうです。聖人・先人に学び、心を育てていきたいと思ふます（年齢を重ねると体力は低下しますが、心力は強くなつていくような気がします）。失われたものを数えるな、残された機能を最大に生かせ。記憶よりも記録などの言葉は、常に生活に生かしています。最後に自作の「あいうえお人生」を紹介します。

あ 挨拶いっばい 明るい人生

い 意欲いっばい 前向き人生

う 運動いっばい 健康人生

え 笑顔いっばい 朗らか人生

お 思いやりいっばい 和やか人生

久松のますますの発展と、卒業生皆様のご健康・ご多幸を祈ります。

## 「出会い」

昭和五十七年卒

四組担任

千葉 家門

私は今現在、朝の八時頃に有楽町駅の改札を出て、初夏には鮮やかなピンクの清楚な花で装うマロニエ通りを中央通りに向けて歩み聖路加病院の脇にある中央区立教育センターに向けて二十分ほど歩いていく生活を週四日のペースで過ごしています。

自分が中央区にご縁をいただいたのは今を去る四十年前、昭和五十四年に久松小学校に着任させていただいたのが中央区との出会いの始まりでした。爾来二十九年間にわたり教師としてお世話になりました。

殊に、久松小学校では尊敬する先輩方や同世代の仲間と切磋琢磨する機会を得ると共に、元気で爽やかな子供達との「出会い」

もあり教師としての大切なものを学ばせていただきましたこと感謝しております。

久松在職中の九年間に、久松小学校開校百十周年、幼稚園開園四十周年の記念すべき行事に関わらせていただく「出会い」を得ました。式典当日には徳仁親王殿下（当時）で在られた今上天皇のご臨席をいただき、朝礼台より全児童と園児のお祝いの気持ちとしての110の人文字を、晴天の下ご覧いただいたことを思い出します。この慶事との出会いは四十年後の今も自分の心を支えてくれる大きな力と誇りになっています。

また、この年に隅田川に不思議な訪問者、大漁の秋刀魚の群れが両国橋付近まで遡上してきたことを思い出します。この出来事を受けて作られた記念詩集のあとがきの一節に、故櫻井睦雄元校長先生が、素直な心

からのおどろきやよろこび〴〵をと示されている幼児・児童の記念詩集「隅田川にさんまがやってきた」を発刊しました。この詩集は今も私の本棚に私の久松小学校での道程として、その背表紙を輝かせています。

今年は、開校百五十周年・開園八十周年にあたる目出度い年にあたります。是非とも、皆さんには新たな開校・開園との「出会い」の中で、更に向上していく久松の礎を造って頂ければと願っています。

「出会い」は何時でも新鮮で、夢を抱かせてくれるものです。卒業生・卒園生皆さんの一人ひとりが出会いを楽しみ、自らの生活を充実させてくれる糧として発展くださることを願いますと共に、子供達一人ひとりにとって周年行事が素晴らしいものになりますことを祈念しております。有難うございました。



## 平成三年度卒業生に思いを馳せる （君たちに感謝）

平成四年度卒  
一組担任

田邊 秀夫

開校一四五周年の祝賀会で卒業生の坂田誠一郎さんに会い、その坂田さんから依頼を受けて、卒業後三十年経った今、思いを馳せることを幸せに思う。

平成二年三月二十四日修了式、君たちとの出会い。私の視線は君たちを追っていた。前日に卒業生を送り出し、目の前には指導する児童はいない。

四学年担任の進士哲先生、河合宏和先生、松田保江先生から引き継ぎ、一組は私、二組齋木純子先生、三組三田盛久先生が君たちの担任になった。前年と同じメンバーで心強い。五年生の君たちは、個性にあふれ、私には未知の可能性を抱かせた。しかし、学級集団を意識させたい私にとって、その時の君たちは思いやりとか友情とかは無縁

に見えた。

月に二、三度の出張があつた。君たちに出張を告げると、君たちは大声で喜ぶけれど、次の日の黒板には、「先生ごくろうさま、私たちは静かにがんばりました。」と書かれていた。また、六年生の中学受験の時、一人の女の子がさみしい顔をしていた。「どうしたの、合格してうれしくないの。」と聞くと、「私はうれしいのだけれど、だめだった友達のことを思うと喜んではいけない。」という言葉が返ってきた。幼き君たちは、たくましく男の子、優しき女の子に変わっていた。君たちに、どんなに励まされ勇気づけられたことだろう。

君たちの学級の意識が表に出てきたのは、六年生の十月、小諸林間学園だっただろう。学級集会では、歌や先生、友達の言葉に照れながらも、涙を流し感動していた。一組は太平洋学級、二組はひまわり学級、三組は富士山学級。それぞれ名前に込められた思い、学級に誇りをもち結束を固めた日となった。異性の友達にも尊敬の気持ちが見

れるようになった。

そして、卒業間近に行われた久松小学校創立百二十周年、久松幼稚園創立五十周年記念式典。秋篠宮殿下・同妃殿下のお成りを仰ぎ挙行された。よろこびの言葉を児童代表として、三組の早川さん、二組の田巻さんが堂々と述べ誓った。奉迎ページェントでは両殿下の周りの方々までもスポットライトが浴びたように笑顔にあふれていた。私は警備係として、両殿下の前を歩き、みんなと行動をとるにできなかったけれど、前校長・十五代校長の飯泉光男先生から、「田邊君、目の前にいた六年生の態度が素晴らしかった。」と教えていただいた。その後発行された記念誌には、「式典が始まる前は個々くつろいでいたけれど、式典になるや膝の上の両手、背筋のよい姿勢がじつと両殿下を注視し何回も続ける起立、着席に音もしない。……過去のそれを遙かに越えるものであった」と書かれている。これぞ久松、私の宝物の言葉である。

## 久松小学校開校百二十年

平成四年卒  
二組担任 鏑木 純子

私は久松小学校に十年間（昭和五十七年度～平成三年度）勤めました。昭和五十七年は、久松小学校開校百十周年の年でした。記念式典に浩宮徳仁親王殿下（現天皇陛下）がいらつしやいました。全校児童で記念詩集を作りました。表紙「隅田川にさん君の詩です。

平成二年四月、五年生担任として皆様とお会いする事ができました。頼もしい田辺先生・優しい三田先生と一緒に楽しく過ごしました。

五年生では、都会では無理だと言われな

がら屋上で野菜（トマト・ナス・大きな大根）をそだて学びました。夏の暑い中冬の氷の中グループで水やりをし生長を観察しました。

館山臨海学園では、深い海迄長い距離を泳ぎ切りました。ヤドカリや海藻類等を見つけたどこに住んでいるか考える友達がいました。キャンプファイヤーの消えかかる灯と共に、五年生の真剣な顔瞳を今でも思い出します。

六年生として、開校百二十年に向けての行事が数多くありました。登校班では、腰を低くし下級生に優しく接してくれました。運動会では、力強いソーラン節・グループの協力が必要な棒倒し・持久走では最後まで頑張り走り続けました。どの競技も六年生らしく自分の力を出し切りました。低中学

年の憧れでした。小諸高原学園では、浅間山の噴火跡・東麓ノ登を全員が登り雲海と紅葉をじっと観つめていました。自然の美しさ大切さを感じました。

久松小学校開校百二十年記念式典が三月に行われました。式典には、秋篠宮殿下・同妃殿下がいらつしやいました。久松小学校、代表の六年生。緊張しながらも立派に参加し貴重な経験をする事ができました。

皆様は四十才代前半です。仕事にも責任を持ち根気よく活躍していることだと思えます。楽しい心・喜びの心・悲しみの心等、久松小学校の友達と会い励まし合ってください。明るく強く誠実に取り組む皆様とおあいできたこと、うれしく思います。

## 開校百二十周年の卒業生

平成四年卒  
三組担任 三田 盛久

卒業生から「校友会だより」の原稿依頼をいただいた折、ふと「ついこの前寄稿したばかりだったのに、どうして続くのかな？」と不思議に思いました。考えてみると、久松小学校在職十年の間に、私は五・六年生の担任を四回連続して持たせていただいていたからでした。

この原稿をご依頼いただいた卒業生の皆様には、格別の思い出があります。確かにこの学年は、四年生に進級する際、児童数の関係からクラス替えがあり卒業までの三年間が同じ学級でした（当時でも珍しいことです）。三年間を共にした子供たち同士は仲が良く、子供らしい結びつきが強固だった印象があります。共に学校生活を楽しみ、時にはもめごともありましたが仲直りが早

い子供たちでした。

六年生の移動教室（当時は小諸高原学園）の帰路、バス車内でのレクリエーションでやけに盛り上がるので、「何て無邪気に楽しめる子供たちなのだろう」と、その子供らしさに感動したことを覚えています。長い乗車時間でも、バス酔いした子はいなかったかもしれません。

卒業間近の三月中旬には、当時の秋篠宮両殿下をお迎えしての開校百二十周年記念式典と行事がありました。体育館での記念式典では、在校生を代表して立派な態度で望む六年生を誇らしく熱い思いで眺める自分がいきました。この日を迎える迄の準備は、連日日付の変わる深夜の帰宅が続くほど大変でした。しかし、翌日に子供たちと顔を合わせると、疲れを忘れていました。青年教師で元気一杯だった私と同様の子供たちとの学校生活が充実していたからだと思えます。

その後の二週間で「謝恩会」「卒業式」と様々な行事が続きました。この様に多忙な中にあっても、子供たちと一日一日、卒業までの僅かな日々を楽しく過ごすことができたことは、教師冥利に尽きる時間でした。久松小学校の大きな節目の年に最高学年の責任を果たし、卒業式を終え学校を去る子供たちの清々しい顔や涙に濡れた顔が今でも思い出されます。「校友会だより」の原稿を書き進めていく中で、当時の子供たちとの学校生活が鮮明に蘇りました。久松小学校は校舎の増改築等もあり、雰囲気随分と変わりましたが、目を閉じると当時の校舎と子供たちの姿が目には浮かびます。卒業生の皆様も同様だと思います。

最後になりましたが、久松小学校と校友会、そして二年間を共にした卒業生の皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

## 永遠に変わらぬ友情を!!

平成十四年卒

一組担任

小柴 静子

平成十四年・卒業の皆さんには、学年百二十一名で、本来ならば四クラスになるところでしたが、学校側の事情や多くの方々の要望により、五年生の三クラスのみまで六年生の出発となりました。

一組の児童数は四十一名でした。

あれから二十年の年月を経た皆さんは、立派な大人となり、社会の一員として貢献していることと思います。

二〇二一年(二〇二〇)の近代オリンピックピックが日本で開催されました。新型コロナウイルスにより、無観客にもかかわらず二〇五か国の選手が集い、重苦しい日々の中、国を越え競い合いました。競い合った後は、成績にとらわれず、喜び合ったり、励ましあったりしている姿に感動の日々を過ごしました。

二十年前、オリンピックのような大舞台とは異なりますが、友と共に支えあい、励ましあっている姿が甦ってきました。水泳に力を入れ泳力に優れた子、俊足を生かし運動会で活躍した子、絵画描写が好きで教室環境に役立ててくれた子、整った文字で掲示物のタイトルを書いてくれた子、美しい音色で楽器を奏で、ブラスバンドで活躍してくれた子など、総合学習の研究発表会では、一部、雅楽に挑戦し、講師の先生指導のもと、〇ヒチリキ〇という珍しい楽器を体験した子もいました。

卒業式前日、皆さんからメッセージカードをもらいました。当時皆さんは、漢字の練習が大変だったようです。その学習法は面倒で、時間がかかり、慣れるまで苦労したようです。しかし、一日一日の積み重ねにより、知らず知らず力が付き、「継続は力」であることを実感したようです。当時、自分の力をためそうと漢字能力検定試験を

受けた子もいました。四十一名全員が、毎日頑張り通したことは、指導者としても誇らしく思いました。また、私へのメッセージカードには「先生は人の心を動かす魔法の力を持っている」と書かれていました。

そして、卒業式当日、黒板全面には紙の花でアーチを作り、その中には「友情永遠に」「先生ありがとうございました」と。

皆さん覚えていますか？ 私が卒業文集に書いた文の一部分を……。 「人生より友達を除けば、あたかも世界より太陽を除くに等しい。」友達は喜びを二倍にし、悲しみを半分にしてくれることを。

今も時折、四十一枚のメッセージカードを手にし、皆さんの顔を思い浮かべながら、懐かしく過ごしています。

皆さんもさらに、信頼できる友がたくさん増えたことでしょう。心の友を大切に、皆さんの人生に「幸」あることを祈ります。

## 十年前に思いをさせて

平成二十四年卒  
二組担任

水上 美穂子

私が平成二十四年度卒業の皆さんを担当したのは、区内の他校から異動してきてすぐの年でした。一組杉田先生、三組は川村先生で、体育が専門のばりばりの若い二人と一緒に私は二組の担任をしました。

その年の四月、今の新校舎のところに大きな桜の木があり、桜吹雪がすごくてみんなでさわいで花びらを追いかけたのを思い出します。また、久松小学校の子は挨拶が上手で、休み時間廊下を通ると、あちこちから、

「こんにちは。」

と声を掛けられて、びっくりしました。

五年生の時は、音楽会がありました。この学年の子どもたちは、とても合唱が上手で、その時の音楽の高石先生のご指導のも

と「日本の四季メドレー」を十五分間歌い続け絶賛されました。保護者の皆さんが作ってくださった紫のコサージュがとても歌に映えていました。

三月に起きた東日本大震災では、校舎や地面が大きく揺れて、とても怖い思いをしました。そして、人と人との「絆」を思った年でした。

六年生になって、運動会では六段ピラミッドをみんな協力してつくったことは大きな思い出です。子どもたちが一番楽しかった、「本栖移動教室」のナイトウォークでは、くじ引きで決めた男女二人で暗い夜道を歩き、盛り上がりました。

学芸会では「走れメロス」を演じました。大きな城壁も衣装も演技も子どもたちが工夫して造りあげ、拍手の嵐でした。

最後の卒業式では、昭和二十年の戦争で卒業式ができなかった先輩と一緒に卒業式を行い、立派な姿と共に、朝日新聞に掲載

されました。

先日、この子どもたちの代表が学校に来てくれて、この文章の依頼と思い出話をしてくれました。その教え子たちが、

「日本橋が大好きだから、ずっとこの町を大切にしていきたい。」

と言っていました。実をいうと私は久松小学校で退職してから、家庭科の教師としてお手伝いをしています。併せて十三年久松にいますが、長くいると、こんなうれいことがあるのだと思いました。

校友会には何度か参加していますが、皆さんの久松愛は大変なものだと思います。学校の子どもたちも大先輩に負けないくらい久松の伝統を長く受け継いでいることに感動します。

この素敵な学校にいられることを幸せに思いつつ、今年百五十年を迎える歴史ある久松小学校がいつまでも地域の方々と共に末長く続くことを願っています。

## 昭和五十七年卒

小学生時代を  
思い出してみませんか。

校友会実行委員長 二組 伊藤 嘉浩

四組 佐藤 由紀

まず、初めにコロナと言われ始めてから約二年。医療従事者の方々に感謝しつつ、みなさまのご健勝をお祈り申し上げます。

昭和五十七年三月に久松小学校を卒業して四十年間、なかなか私たちの世代は真面目にやってきたのではないのでしょうか。女子大生ブームやコギャルブームのようなムーブメントを起こした世代でもなく、肅々と大人になったと思います。

さて、私ごとではございますが、小学校時代のことを特段思い出したり、懐かし

がったりすることなく過ごして参りましたが、なぜかこの度、校友会の年度幹事のハガキが届き、今まで小学校生活を振り返ることをしなかつた懺悔の気持ちからか、ただの気まぐれか三人の同窓生と共に年度幹事をする事になりました。この寄稿文が読まれる頃にはご協力くださる同窓生が他にもいらつしやると思えますので「みなさま ありがとうございます」とお礼をさせていただきますね。

ここで、在学中の六年間を振り返ってみました。

慌てて卒業アルバムを開いて見えますが、まず、入学式の集合写真の大人たちの誰よりも今の自分の年齢が一番年上だろうということに驚いております。一年生の担任の山本先生はこの時はきつと二十代でいらつしやいますね。そして、都会の小さな校庭での運動会や自分の作品のお披露目を

する展覧会、練習の成果を発揮する音楽会。昭和五十七年はまだ卒業アルバムの中に白黒写真も混じっているのですね。せっかくの展覧会の絵の色も、運動会のハチマキの紅白も、ブルキャップの懂れの黒線も写真ではわかりませんが、アルバムを見ながらその当時の色彩が思い出と共に鮮明になってきました。その他、各種クラブ活動や委員会活動、館山臨海学校に、小諸への修学旅行といろいろな経験をさせてもらえた小学生だったんだと親や社会、学校、先生に感謝しながら、これからの過ごし方と思えます。

「昭和五十七年」でググって当時の社会ニュースを読んで、自分の小学生時代を思い出してみませんか。なかなか楽しいタイムスリップになりましたよ。

## 平成十四年卒

### 卒業して二十年

一組 長堀 弘

私たちが久松小学校を卒業して、二十年が経過した。非常に早かったと実感している。学生生活を非常に楽しく、有意義に過ごせたことが今の私につながっている。

昨年、校友会の年度幹事を引き受けさせていただき、恩師あいさつの依頼のために十年以上ぶりに小柴先生へ郵便を送付した。今でも非常にお元氣そうで、四日ほどで返送が届いた。先生の印象といえは、【優しく】【厳しく】接していただいたというのはもちろんだが、非常に【達筆】だったというのを覚えていて。先生からの返信を見るとその達筆さは今でも健在で、やっぱりすごいなと率直な感想を持った。

先生からの返送が届いた後、私は家の奥深くに眠っていた小学校の卒業アルバムを引っ張り出した。しばし眺めていたら、いろんなことが思い出された。行事の面では、

柏学園・館山臨海学校・本栖の移動教室・学芸会・音楽会といったチームでの行動を伴う行事が印象的であった。特に、(記憶が正しければ、私たちの学年から始まった)音楽会は非常にやりがいを持って取り組むことができたと感じている。合唱と演奏の二部構成で、百二十一名で何かをやりきることの素晴らしさを実感し、身震いしたのを今でも覚えていて。一人で何かをやる仕事なんてほとんどないことをみなさん実感していることとは思いますが、これほどまでに周囲の人に評価されることなのだと初めて感じた瞬間だったように思う。

また、当時六年一組だった者たちを思い返してみると、私たちのクラスは非常に才能あふれた級友が多かったことを覚えている。楽器に才能を見出していた者、非常に俊足で誰もに一目置かれていた者、絵をかくのが得意で日頃から自由帳に絵をたくさん描いていた者などいろんな級友がいた。このように、久松小学校では勉強だけでなく、一人一人の個性を受け入れて、一人一人の能力をどう伸ばしていくかを考えたカリキュラムがあったのではないかと思ひ、越

境してまで入学させてくれた両親に感謝したいと今では心から思う。

久松小学校を卒業して二十年が経過し、社会の一員となった今、コミュニケーションをとっていくうえで大事なことや、チームワークの重要性など、たくさんのことを教えていただき、自分の中に潜在している一つ一つの能力を高めていくための原点だったのではないだろうか。

新型コロナウイルスの禍中、気軽にどこにでも行くことができなくなっている世の中ではあるが、悲観しているばかりではなく、自身を成長させる術や楽しむための術はSNSの発達に伴ってどこにでも転がっていると思う。自分は自分で変えるしかない。でも友情は一生変わらないものがあると信じている。新型コロナウイルスが落ち着き、マスクなしで気軽にどこにでも行くことができるようになったら、当時の級友ともお会いできる機会があることを切に願う。

プライベートも仕事も、充実したものになりますように！

## 平成二十四年卒

### 十年の友情

二組 小林 海渡

卒業して十年が経ち、初めて校友会の年度幹事として微力ながら運営に携わらせて頂きました。卒業して二十年、三十年、そのまた先輩の方々の姿を見て、久松小の歴史の深さ、また地元に誇りを感じています。

私たちの学年は、とにかく仲が良いことが特徴だと思っています。高校や大学の友人と話すとき驚かれるほど普段から会い、飲みに行くことが多いです。私たちが高校生ころは、久松で同じクラスだった友人達と共に、新しくなった久松小の校舎を、当時校長だった酒井校長先生に案内して頂きました。大学生になってからは浜町公園で急遽集まったり、同級生一家で営んでいる焼鳥屋で飲み明かしたりと、交流する機会が普段からあります。二十歳になり迎えた

成人式では、継続して交流があった友人はもちろん、卒業振りの同級生との出会いもありました。中高の同級生と過ごした後、夜には地元で再度集合し、三次会をおこなうほど、盛り上がりました。コロナ禍となつた今も、地元が近い友人同士で集まったり、頻繁に連絡を取ったりと仲の良さは健在です。

去年校友会の原稿を頼みに、卒業時担任をしてくださった水上先生と久松小の家庭科室でお話させて頂きました。また、私たちが一年生の時に担任をしてくださった松岡先生もいらつしやり、より鮮明な思い出話をしてくださいました。お二人が現在も久松小でご指導されているのを見て、私たちが元気をもらうほどでした。これからも私たちが成長していく姿を末長く見守って頂ければ嬉しいです。

私たちは今年で二十三歳になります。皆の将来を聞くと、すでに社会人として働いている人、一般企業に就職する人、看護師になる人、大学院に行く人、大学生の人、

様々でした。これからは集まれる回数は減ってしまうかもしれませんが、皆が異なるフィールドで活躍することを祈っています。社会人になっても、変わらず集まろう！





先輩からのおたより

## 久松小学校時代が講談の原点

昭和五十八年入学  
講談師

神田 山緑

私は日本で九十人しかいないという希少な職業・講談師というものをやっておりません。講談師と申しますのは、高座と呼ばれる場所で釈台という小さな机を張り扇でもってパパンッと叩いてリズムカルに歴史上の人物の活躍などをお話しさせていただくのが仕事です。

講談に出てくる物語は『鼠小僧次郎吉』『大岡越前』『赤穂義士伝』『谷風梶之助』『お富与三郎』など。戦国時代や江戸時代の人々の姿や生活を生き生きと語ってお見せするのが腕の見せ所です。現在活躍中の講談師はみな江戸時代に知り合いはおりませんが、人形町に生まれ育ち小学校四年生までですが久松小学校に通った私は、古き良き時代の風情を肌で感じて育ってきたことが強みとなっていると自負しております。

私の母親は昭和三十八年に久松小学校を卒業し、人形町二丁目にあった祖母が経営

する岡崎旅館で若女将となりました。息子である私は浜町保育園から久松小学校に通うことに。旅館の向かいが呉服屋、その隣が清元と小唄の師匠の家、その隣が藤間流の踊りの稽古場。小学校から帰ってくると浴衣姿で踊りの稽古にやるお弟子さんに挨拶をし、小唄の師匠のお嬢さんに遊んで貰いました。うちの旅館には、人力車で芸者がきて三味線に太鼓の音色が聞こえてくると宴会が始まります。私が昭和生まれと言っても信じて貰えないような古き良き粋な世界がそこにはありました。

そんな私が、家の事情で人形町から中野へ引っ越すことになりました。中野には三味線の音や呉服屋も近所にあります。現代らしい普通の生活に馴染んだ私は、大学を卒業してトヨタの販売店に就職をしました。一年目に新人賞を受賞したりしてそれなりに評価されるのですが何か物足りません。二十七歳の時に起業して社長ともなっても物足りなさは変わりません。

そんなある日、お江戸日本橋亭の寄席に初めて入って、講談を聞いた時に全身を雷に打たれた心持ちになりました。子供の頃に聞いていた三味線の音色、懐かしい匂い、

そんなものが鮮やかに蘇ってきました。講談を聞き終わった後、涙を流している私がありました。それをきっかけに講談教室に通い、二十九歳のときに講談師・神田すみれに弟子入りし修行が始まりました。遅い年で入門したので、それなりの苦労などもありましたが、やりがいも充分にありました。講談師になって十六年目、久松小学校時代の体験が私の講談の世界を豊かにしてくれていると実感しています。

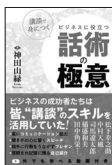
(一年生から四年生まで在籍)



高座姿



中野区観光大使活動写真



## 貧しさの中の豊かさ

昭和二十七年卒業 渡辺 俊夫

コロナ禍による閉塞感が、校友会活動に影響しないことを祈るばかり。手を取り合いい、声を交わす日が早く来てほしい。どの学校も行事の縮小・延期・中止など、苦慮されている姿にも心が痛む。

このところ、デジタル技術に依存した教育思想が急速に勢いを増してきた。新型コロナウイルス感染拡大がこれを後押ししている。リモートで授業は可能という前提。しかし、「学ぶ」行為は人間臭い作業のはず。「学校」よどこへ行く。

平成二十七年、文科省が国立大に出した通知が波紋を呼んだ。人文社会系、とりわけ教員養成系学部の見直しを策定。組織の廃止や社会的要請の高い分野へ転換、と謳った。紙背には経済界への配慮が窺われたが、その経団連からも反論が上がった。

理系、文系の二者択一はおかしい。コロナ対応のワクチン開発では理系の独壇場に見える。一方、現場で活躍する医療従事者らの献身も感動的。この情意はむしろ文系で培われたものだろう。双方向性が大切だ。

私の小中学時代は、貧しさと合わせ鏡だった。昭和二十一年、久松小に入学した。我々は、何かにつけ我慢を強いられていた。しかし、「無い」という状況は平等で、不満のぶつけようもなかった。いま、アルマーニの標準服で通学など、他校の話題に戸惑いを覚えている。

校舎は空襲で被災。講堂の屋根は抜けた（二十七年、我々の卒業式で漸く使用可能に）。窓際は明るい、ガラスが割れて寒さは厳しい。新しいガラスが入ったのは二十二年十一月。廊下は二十六年一月に修復工事開始。それまでは外の道路と変わりなかった。

一方、巡回してくるナトコ映画上映会で

は、アメリカの生活水準の高さを見せつけられていた。我々にあるものと言えば家族、友人、隣人。ひとは尊い財産だ。当時、町内から久松小に通う子は十五、六名もいた。上級生が町内の二十歳そこそこの青年と協力、我々を上野動物園へ連れて行ってくれた。勝鬃橋を渡り、ハゼ釣りに行ったことも。

通学区域ごとの教育モデルがあった。「地域別子供班」、「地域別レクリエーション」、運動会では「地域別リレー」。貧しくてもできることはある、という楽観主義（これが日本復興の原動力）が機能していた。担任が家庭訪問する機会も稀ではなく、近しい距離感だった。だが、住宅難のうえ交通事情も悪く、下宿から通う先生もいた。男性教諭には、宿直当番もあった。保安のためである。宿直室に夕食のおかずを届ける保護者の姿もあった。

卒業間近の二十七年三月。五年二組（向

山和彌先生担任)の児童が、「六年二組の皆さんを送る会」を開いてくれた。授業終了後の小一時間。確か、五年代表の挨拶や合唱があった。その後のティータイムは、五年生が作ったクッキーを食べて歓談という企画。煎餅ほどの大きさ。焼き加減は上々。砂糖不足で甘みに欠けるが、心のこもった一枚だ。同級生に対する感情とは違う、惜別の思いが。すでに私のサイン帳には大勢の級友、先生方の筆跡がある。五年二組の何人かにも署名をせがんだ。まことに有難うございました。

ひとの成長過程で地域や学校の果たす役割は大きい。卒業した学校を「母校」と呼ぶ行為を、皮膚感覚として理解できるようになった。私自身の結婚式にそれが無意識のうちに顕われた。ご出席頂いたのは、地縁や、小学校から大学までの間で交誼のあった級友、担任、ゼミの教授などで半数以上。ご媒酌はかつての担任・村澤晃先生ご夫妻であった。

先生が亡くなる少し前、小包が届いた。写真(※)や、編集を担当された『八十周年記念誌』、松徳三郎先生が村澤先生に贈った『久松小学校沿革と出身者名簿』。経歴を記した紙片もある。「何かの役に立てて」とメモが。

我々は先生と同じ景色を見てきた訳ではない。戦中戦後の状況を知ってほしい、との遺志に少しでも沿いたい。先生は東京第一師範学校在学中の二十年六月に徴用。鹿島灘に配属されたが、程なく終戦。以後は両親と三人の弟妹を守る責任がある。別の小学校で助教などした後、二十三年三月、久松小に奉職。

同年初、舗装改修を終えた校庭で大運動会。児童席の後ろにいる女性に気づいた。「村澤の母です」と仰る。我が子の働く姿を見たいという親の顔だった。私の鉢巻が曲がっていて、丁寧に締め直して下さった。

(校友会元会長)



※昭和二十四年十月、体育祭終了後に開かれた職員慰労会の様子。机の上は質素だが、飛び切りの笑顔がある。

## 東京オリンピック

昭和四十六年卒業 矢作 祥子

五十七年前のあの日、中の橋の交差点みはし堂の前で、きく組のみんなと一緒に聖火ランナーに日の丸の小旗を振って応援した記憶は夢か現か。いや久松町の牛乳屋さんの前だったかも知れない、あれ？ マラソンランナーだったかも？

そんなことを思い出しながら二〇二一年七月二十日、決められた柵の外側からスポンサーの小旗を振って「爺ジ頑張れー」と来春から久松幼稚園に入園予定の孫と一緒に聖火ランナーの夫を応援しました。この日、浜町公園グラウンドに台東区と中央区の聖火ランナーが集められ、聖火トーチリレーイベントが行われたのです。もしも問題なくオリンピックが開催されていたのなら、コレド室町テラスあたりを二百メートル、大応援団に見守られて颯爽と(?)走

る予定でした。それが二メートルに短縮、頑張れーと言っていた孫もきよんととして「爺ジは勝ったの?」と何度も尋ねてくるのでした。

世界中がスペイン風邪以来のパンデミックに飲み込まれ、オリンピックの開催自体も危うくなり、その意義も不確かなものになってしまいましたので、聖火リレーなどおそらく中止になるに違いないと思っておりました。

そのような状況下、いろいろな工夫をして楽しい記念イベントを開催してくださいました関係の皆さまには感謝の気持ちでいっぱい입니다。五十七年を経て、この日の孫はあの日の私です。どのような記憶に残るのか、それを考えただけでワクワクします。ありがとうございます。

ところで、あの日の私の思い出は幻でしょうか? いまだ判然としません。どなたか覚えていらっしゃいませんか?



## 希望の光をつないで

昭和五十四年卒業 江藤 照美

東京に二度目のオリンピックがやってくる！大いに盛り上がった二〇一三年。東京で行われるスポーツの祭典で大好きな地元を胸を張って走り抜きたい、この地に生を受けて以来、地域の皆さんからあふれる愛情を注いでもらったことへの恩返しをしたい、夢を持ち強い意志を抱き続け情熱を向けてぶつかれば不可能はないということをお教えた子たちに訴えたい、そんな思いから聖火リレーランナーに応募しました。

二〇一九年夏、東京二〇二〇組織委員会が策定した「アクション&レガシープラン」の「五本の柱」の中から選択した一つの分野に沿って自己PRや応募動機を、さらには東京都や中央区への思い、そして第三者による推薦文を添えての応募となりました。

そしてその年のクリスマス十二月二十五日に組織委員会からプレゼントが届きました。聖火リレーランナーに選ばれたという連絡。職場の同僚も一緒に大喜びをしたことを昨日のことのように思い出します。年が明け二〇二〇年二月十四日にはリレー当日の身分証明書関係、ト

チ購入、ユニフォーム規定などの連絡を受け、三月二十日に走行日程と走行場所の連絡を受け、地元中央区を走れることが決定しました。同時に、同じくして全世界的にCOVID-19新型コロナウイルス感染症が想像をはるかに超える勢いで猛威を振るい始めました。東京二〇二〇大会の一年延期決定、コロナ禍により閉塞感に包まれる日々、日常がすっかり変わってしまい不安な日々が続く、そんな中、日本に希望の光が届きました。二〇二一年、桜の季節の訪れとともに、「Hope Lights Our Way / 希望の道をつなごう」というコンセプトと一体になり、ギリシャ・オリンピアで採火されたオリンピック聖火が日本を巡ることになりました。時は流れ……七月二十日、浜町グラウンドにて二年越しの夢が叶いました。地元中央区に運ばれた聖火をこの手に取り、継承することができた感動は一生忘れることはないでしょう。この日の私があるのは地域の皆さんと教え子たちからもらった元氣・勇気のおかげ。今まで出会った全ての人の思いを聖火に載せ、全ての人への感謝を抱き、二年分の思いを一瞬のトーチキスに込めて聖火をつなぎました。トーチの重さは一・二kg。桜の花びらをモチーフに、花びらから生み出された五つの炎がトーチの中心でひとつになり、より強

く大きい輝きで希望の道を照らしていました。聖火が灯ったトーチを持つことができた、全身が震えるような神聖な感動に包まれました。時代の流れとともに地域は大きな変革の時を迎えています。商業地域から住宅地域へと変わる街を目の当たりにしながら、幼少期から経験してきた素晴らしい下町文化を守り、次世代を担う若者に、そして新しく地域の仲間入りをした人々に伝え継承していくことが求められていると感じています。中央区でつながれた聖火と同様、明治の時から大切に受け継がれてきた久松の伝統と歴史、精神性もしっかり継承されてほしいと願ってやみません。



## 昭和二十一年同期会

昭和二十一年卒業 福田 錦二

私達は米寿を迎えました。本来なら人数で開催の予定でしたが、コロナ禍の為ホテル側でも少人数でと云われ、淋しい気持ちで急遽連絡知足会の六名で開く事になってしまい残念と申し訳なく思ってます。

十一月三十日、花むさしにて会席料理で昔話近況等で華を咲かせ、学童疎開の時代に呼び合った、ちゃん付けで数時間があったという間に終了、その後同席で十二月生まれが三人居合わせたので村松氏がご馳走して下さり、二重の喜びしたに感じました。二年後の卒寿には今の姿で元気で逢う約束をして散会となりました。

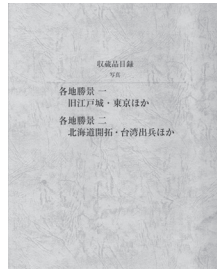
コロナ禍に耐え二年が経ちました。平穏な日が戻るか不安の中又新しいウイルスが猛威を振るう兆し。祈るばかりです。



### 校友会へ寄贈

### 宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品目録

東日本橋3丁目橘町会 副会長 仙石貢様から校友会に寄贈されました。校友会とし



明治6年に開校した久松学校および当時の在籍生徒たちを写した写真が6葉掲載されています。

大切に保管させて頂きます。ありがとうございます。

## ■年度幹事



今年の年度幹事（昭和57年、平成4年、平成14年、平成24年卒）の皆様、本当にご苦労様です。ありがとうございました。

## ■校友会運営委員一覧

- ◎会長 川口修一郎（昭53）
- ◎副会長 杉山寿英（昭56）
- ◎書記 中谷久子（昭37）
- ◎会計 橋詰卓佐枝（昭34）
- ◎編集長 三部 健（昭51）
- ◎庶務 大野由貴子（昭46） 三部 健（昭51） 兼務
- ◎委員 渡辺政博（昭51） 矢川春文（昭54）  
大塚ふさ子（昭56） 齊藤淳子（昭56） 関戸菜美（昭56）  
前澤佐代子（平14）
- ◎監査役 説田好伸（昭37） 廣田隆之（昭57）
- ◎相談役 中村正信（昭37）
- ◎総会サポーター 宮島裕美（昭46） 松下久子（昭46）  
倉谷通孝（昭47） 江藤照美（昭54）

## ～運営委員大募集です！～

校友会は運営委員を広く募集しています。

校友会は毎年5月の総会に向け、校友会だよりの編集、校友会総会、イベントの企画についての話し合いをしています。

しかしながら、最近では運営委員をお引き受け頂ける方が、激減しています。そのため、運営委員の高齢化が進んでおり、運営委員会の活動が少々困難になってきているのが現状です。

是非とも校友会運営委員会の活動を次の世代に引き継ぐべく、運営委員を常時募集しています。

短期間や一作業でのお手伝いでも構いません。これなら出来ます！これだけなら出来ます！と、手を上げて頂ける事を願っています。運営委員会は、通常毎月第2木曜日 17:30～ 浜町コミュニティールーム（浜町1-2-3）で行っています。お気軽にお越しください。

なお、最新の運営委員会の開催案内はホームページを参照頂くか、メールにてお問い合わせください。

# 中央区立久松小学校校友会会則

- 第1条 本会の名称を中央区立久松小学校校友会とする。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦、情報交換、母校のより良い教育環境構築へ支援を図ることを目的とし、特定の政党、宗教等の活動の場としてはならない。
- 第3条 本会会員の構成は下記の通りとする。
- ・正会員 久松小学校の卒業生および在籍した者
  - ・特別会員 久松小学校の職員ならびに旧職員
  - ・名誉会員 終身名誉会員である久松昂子氏とする。
- 第4条 本会の運営は、久松小学校校友会運営委員があたり、下記の運営委員をおく。
- ・会長 1名
  - ・副会長 若干名
  - ・書記 正副各1名
  - ・会計 正副各1名
  - ・編集長 1名
  - ・庶務 若干名
  - ・委員 数名
  - ・監査役 2名
- いずれも正会員中より選出する。
- 尚、運営委員とは別に相談役を置くことができる。
- 相談役は過去の運営委員（旧名称：常任幹事）から運営委員会の議決をもって選出する。相談役は、運営委員会から相談された時、適切な助言をするものとする。
- 第5条 会長の任期は1期2年とし、最長で4期8年とする。
- 副会長、運営委員、監査役の任期は1期2年とし、再任を妨げない。
- 相談役を除く役員の前任期の最終期限は卒業60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。
- 第6条 本会の総会は毎年1回、5月第4日曜日に開催する。
- 通年の活動のうち、総会開催に向けての一連の作業は、卒業後10年、20年、30年、40年を迎えた学年に当番年度幹事を依頼し、運営委員との連携のもとに行われる。
- 第7条 必要に応じて、臨時総会を開催する。その時期は運営委員会により決定される。
- 第8条 本会の運営は入会金、会費、寄付金、基金等により維持する。
- 尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。
- 第9条 本会の収支決算は監査役の監査を経た後、運営委員会、総会の順に承認を得る。
- 第10条 本会の事務局は、〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2 中央区立久松小学校 03-3661-6106内に置く。
- 第11条 本会則の変更は、運営委員会にて協議、議決し、総会において出席会員の過半数の同意を得て変更できるものとする。
- 総会を欠席する会員は、委任状による賛否の意思表示を可能にする。
- 但し、委任状無く欠席した場合は棄権とみなすものとする。
- 第12条 本会の運営上、想定外の事態が起きた場合、必要に応じ、母校、及び関係各団体等と十分な連携を図り、より良い結論を得るよう努力する。
- 第13条 運営委員及び相談役の行動には公明正大さが求められる。本会の活動理念に违背する行為があった時、運営委員会で慎重審議のうえ、解任・



除名を行う。

第14条 本会則に無い事案については、運営委員会で誠意をもって協議し決定するものとする。

内規 第4条、及び第13条に関して

- ・校友会会長は、組織の独自性を守り、校友会の代表として純粋に機能する為、母校PTAまたは久松睦会の会長を兼任する事は出来ない。
- ・運営委員及び相談役はその肩書きを利用して、個人的な営利を図ることができない。
- ・相談役は、その知識・経験を会の運営に生かすよう運営委員会との連携を心がける。

本則／平成26年5月施行。

※平成21年5月 久松昂子氏を終身名誉会員に推戴。

---

## 中央区久松小学校校友会 運営委員会会則

(名称及び事務局)

第1条 本会は「中央区立久松小学校校友会運営委員会」と称し(以下、本会とする)、事務局を東京都中央区日本橋久松町7-2、中央区立久松小学校(以下、母校とする)内に置く。

(目的)

第2条 本会は、母校校友会の会員相互の親睦等を目的とする母校校友会の会則の趣旨に則り、その円滑な運営を活動の目的とする。

(活動内容)

第3条 本会は、前項の目的を達成するために次の事項を行う。

- (1) 母校校友会の総会の開催に関する事
- (2) 母校の記念行事ならびに事業に協力すること
- (3) 機関誌「校友会だより」の発行・発送に関する事
- (4) その他、目的達成に必要な事業に関する事

(運営委員会)

第4条 本会には次の運営委員(以下、会員とする)を置く。

会長(1名)、副会長(若干名)、書記(若干名)、  
会計(若干名)、編集(若干名)、庶務(若干名)、  
委員(数名)、監査(若干名)、総会サポーター(若干名)  
尚、運営委員と別に相談役を置くことができる。

(会員の定義)

第5条 会員は母校校友会を応援して下さる方とする。

尚、相談役については過去の本会(旧名称:常任幹事会)の運営委員より選出する。

(会員の職務)

第6条 (1) 会長は本会を代表し会務を総括し、総会における議長を担当し、最終決裁を行う。

(2) 副会長は会長を補佐し、会長不在の場合はその職務を代行する。また、会長が最終決裁をできない状態にある時は、副会長のうちの一人が会長に代わって最終決裁を行う。

(3) 書記は会長の指示に従い本会の記録事務を総括し、総会時に事業報告を行う。

- (4) 会計は会長の指示に従い本会の会計事務を総括し、総会時に会計報告を行う。
- (5) 編集長は会長の指示に従い、機関誌「校友会だより」の編集を行い、毎年4月上旬に発行する同誌を遅滞することなく、校友会会員に配布する。
- (6) 庶務は会長の指示に従い本会の円滑な運営のための事務作業を統括する。
- (7) 監査は本会の実施事業および会計事務を監査し、総会時に監査報告し、総会での承認を得る。
- (8) 相談役は会員から相談があった場合に、その案件に関して必要な助言を行う。
- (9) 総会サポーターは、総会開催の前日及び当日の準備、設営、運営、撤収などの実施作業全般を担うものとする。

(任期)

第7条

本会会員の任期は2年とし、再任を妨げない。  
但し、会長については初任期間を含めて通算4期8年間を限度とし、いずれもその任期の最終期限は卒業後60年目とし、当該年の総会終了をもって定年退任とする。

(会議)

第8条

(1) 総会

総会は本会の最高議決機関であり、原則として毎年5月第2金曜日に開催する。また必要に応じ、運営委員会の臨時総会を開催することができる。その時期は本会によって決定される。

(2) 正副会長会議

同会は会長が招集し、月次運営会議（次項参照）を円滑に進めるため、議題について話し合う。尚、必要に応じ、議題に関する会員等の参加を認める。但し、意思の合意、議決の誘導の場としてはならない。

(3) 月次運営委員会

同会は総会に次ぐ議決機関であり、原則的に毎月第二木曜日に会長が招集する。総会に提出する諸議案や同会で協議した各種議題の実施内容について決議する。尚、議決にあたっては、相談役を除く会員のうち出席者の過半数により可決する。

(4) 当番年度幹事・運営委員合同会議

当番年度とは、卒業後10年、20年、30年、40年の年度を指し、その学年に幹事を依頼し、会長が招集し、総会当日まで会員と連携し、「校友会だより」の作成、総会運営に関する打ち合わせを行う。

(5) 事務局

事務局は母校内に置かれ、常駐するものはないが適宜に母校側と連絡を取り、本会に関する諸行事が遅滞なく進行できるよう主に庶務が担当し全体的な連絡・調整を行う。

(会計)

第9条

本会に要する経費は運営委員会の決定により、入会金、会費、寄付金、基金等により維持するものとする。尚、会計期間は毎年7月1日から翌年6月30日とする。

(母校との連携)

第10条

本会は必要に応じ、母校および関係各団体等と十分な連携を図り、各種事業の実施を行う。

(休会及び解任)

第11条

会員の心身等の理由により職務の執行に耐えない時、または会員にふ

さわしくない行為があった時は本会の議決により休会もしくは解任することができる。

(除名)

第12条 会員が次の各号のいずれかに該当する時は、同会の議決により除名することができる。

- (1) 母校の名誉を傷つけ、または校友としての品位を害する行動、言動があった時。
- (2) 校友会の秩序を乱した時。
- (3) 故意、または重大な過失により、母校、校友会、もしくは本会に損害を与えた時。

(会則の変更)

第13条 会則の変更については、本会則第8条3項により、本会月次運営委員会に於いて協議・議決される。

第14条 本会則に無い事案については、会員の誠意をもって協議し決定するものとする。

(附則)

この会則は令和4年3月10日より施行する。

本会則に記載あることに相違ありません。

東京都中央区日本橋久松町7-2

中央区立久松小学校 校友会 会長 川口修一郎

## 令和2年度事業報告

2020（令和2）年7月1日～2021（令和3）年6月30日

書記 中谷久子

月・日	
〈令和2年〉	
7・1	年度幹事・運営委員反省会
7・24	浜町コミュニティールームにて運営委員会
8・14	浜町コミュニティールームにて運営委員会
9・3	浜町コミュニティールームにて運営委員会
10・3	母校2階家庭科室にて年度幹事と学校側の初顔合わせ
10・29	浜町コミュニティールームにて運営委員会
11・14	浜町コミュニティールームにて運営委員会
12・5	母校2階家庭科室にて年度幹事と合同幹事会
〈令和3年〉	
1・14	東日本橋2丁目会館にて運営委員会
1・23	久松町区民会館にて年度幹事とリモート合同幹事会
2・27	久松町区民会館にて年度幹事とリモート合同幹事会
3・13	浜町コミュニティールームにて年度幹事とリモート合同幹事会
3・20	浜町メモリアルにて年度幹事とリモート合同幹事会
3・28	浜町コミュニティールームにて運営委員会
3・30	浜町コミュニティールームにて運営委員会
4・15	浜町コミュニティールームにて運営委員会
4・19	母校2階会議室にて久松小学校150周年準備委員会に川口会長・橋詰会計出席
4・24	母校2階家庭科室にて年度幹事とリモート合同幹事会
4・29	母校地下にて倉庫整理、東日本橋2丁目会館にて運営委員会
5・5	母校地下にて封筒詰め
5・16	浜町コミュニティールームにて年度幹事とリモート合同幹事会
5・23	リモートにてオンライン総会開催
6・15	東日本橋2丁目会館にて運営委員会
6・22	浜町コミュニティールームにて運営委員会
6・26	母校2階家庭科室にて年度幹事と合同幹事会

# 令和2年度会計報告

収支報告書

2020（令和2）年7月1日～2021（令和3）年6月30日

収入の部		支出の部	
前期繰越金	796,679		
《会誌関係》		《会誌関係》	
広告	960,000	本誌（発行6,300部）	594,000
基金	291,000	発送費	444,570
		本誌作成費	10,510
《総会関係》		《総会関係》	
		総会運営費	141,422
《運営関係》		《運営関係》	
入会費	92,800	卒業記念品費用	95,700
年会費	237,000	慶弔費	5,000
受取利息	7	出席交通費	89,431
		振込手数料	34,196
		通信費	4,938
		ホームページ運用費	59,922
		事務費	1,783
		常任委員会費	16,289
《周年行事》		《周年行事》	
基金	457,000	ノート代	102,200
		積立	354,800
		次期繰越金	879,725
	2,834,486		2,834,486

## 周年行事基金積立金 残高報告書

前期積立繰越金残高	1,066,289
当期積立繰入金	354,800
	1,421,089

## 資産報告

預貯金	2,320,251	次期繰越金	879,725
ナナコ	563	周年行事基金積立金	1,441,089
	2,320,814		2,320,814

上記の通り報告いたします。

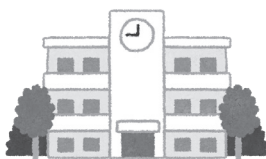
会計 橋詰卓佐枝(昭34)  
監査 中谷久子(昭37) 廣田隆之(昭57)

## 令和2年度基金寄付者ご芳名録

2020（令和2）年7月1日～2021（令和3）年6月30日（順不同 敬称略）

(昭和30年)		(旧職員)	
齊藤 和臣	1,000	栗田 千恵子	1,000
(昭和31年)		(昭和8年)	
矢島 健次	5,000	(故) 佐藤 欽子 (渡邊)	5,000
島村 宏和	5,000	(昭和13年)	
稲崎 祥二	5,000	坂 園子 (畑)	1,000
千原 ゆう子 (加藤)	2,000	(昭和14年)	
谷口 全男	2,000	太田 善朗	2,000
本田 貫一	2,000	栗原 聖	2,000
北村 忠司	2,000	歌代 三郎	1,000
山越 安代 (岩田)	2,000	(昭和17年)	
(故) 伊東 範行	1,000	背山 照子 (名和)	5,000
鈴木 茂男	1,000	名取 節子 (志村)	1,000
(昭和32年)		(昭和18年)	
郷 金二郎	5,000	瀬川 幸雄	4,000
森脇 薫代 (大澤)	4,000	(昭和19年)	
浦嶋 陽子 (小松)	3,000	建石 壯一	3,000
岩崎 美栄子 (大川)	2,000	杉山 紀子 (川口)	2,000
関野 昭幸	2,000	(昭和20年)	
西明 帝子 (内藤)	1,000	(故) 松田 和美 (西田)	5,000
(昭和33年)		佐藤 静江 (小島)	2,000
加田 康八	5,000	(昭和21年)	
野口 英一	3,000	福田 錦二	5,000
辻 尚平	2,000	村松 重徳	5,000
湯浅 晴江	1,000	山田 良三	2,000
平井 善夫	1,000	遠藤 光子 (牧野)	2,000
神谷 良夫	1,000	掛川 宣雄	1,000
(昭和34年)		一色 せつ子	1,000
橋詰 卓佐枝	5,000	(昭和23年)	
樋山 憲治	2,000	越森 馨子	2,000
尾澤 道夫	2,000	(昭和24年)	
高橋 弘道	1,000	山田 春江 (吉田)	2,000
渡辺 誠	1,000	(昭和26年)	
(昭和35年)		竹内 輝雄	1,000
高木 為嗣	4,000	匿名	2,000
立原 正雄	3,000	匿名	6,000
安部田 貞昭	3,000	(昭和28年)	
横島 邦子 (岩田)	2,000	松原 亨	5,000
青木 信雄	1,000	戸賀崎博保	2,000
横田 和博	1,000	菊島 紀美子	2,000
(昭和36年)		五島 秀幸	2,000
大西 隆	2,000	杉田 充規	1,000
松木 教子 (田中)	2,000	天羽 弘子 (館)	1,000
井上 泰子 (吉村)	1,000	(昭和29年)	
小川 眞佐子 (堀口)	1,000	矢島 壮太郎	5,000
東 章二 (樋山)	1,000	矢島 壮太郎	2,000
土屋 つや子	1,000	阿部 雅博	2,000
中島 務	1,000	鈴木 貞臣	1,000
内田 君子 (笠井)	1,000	岩岡 隆	1,000
山口 洋子 (石村)	1,000	大塚 照男	1,000
新谷 聖法	1,000		

松田 直美	2,000	(昭和37年)	
岡野 栄一	2,000	中谷 久子 (笠井)	3,000
阪田 達朗	1,000	中谷 久子 (笠井)	3,000
(昭和53年)		鈴木 健文	2,000
小久保 明美 (鷺澤)	2,000	田中 豊	2,000
(昭和56年)		飯島 孝夫	2,000
松田 由起子	2,000	山田 ふじ子 (江口)	1,000
杉山 寿英	1,000	河野 晴行	1,000
伊藤 薫 (吉川)	1,000	関 眞弓 (目黒)	1,000
横溝 桃子	1,000	吉村 博	1,000
昭和56年卒有志	3,000	新井 正子 (山本)	1,000
(昭和59年)		佐々木 美知子 (飯田)	1,000
田口 弘明	5,000	村田 慎一	1,000
中川 康二郎	1,000	荒井 豊	1,000
(昭和61年)		柳田 博光	1,000
新井 絵美子	1,000	(昭和38年)	
新井 絵美子	1,000	齋藤 三保 (鈴木)	1,000
(昭和62年)		鈴木 裕基子	1,000
郷坪 育子 (清水)	2,000	(昭和39年)	
藏田 幸三	1,000	笠井 秀一	2,000
(昭和63年)		(昭和41年)	
曾我 竜也	1,000	鈴木 良一	1,000
(平成元年)		遠藤 眞喜子 (大山)	1,000
森 量裕	2,000	DUNN 美江 (長井)	1,000
(平成3年)		前田 賀子	1,000
西沢 俊昭	1,000	(昭和43年)	
(平成10年)		山田 寿和	2,000
浦上 真貴子 (宮下)	1,000	小川 健二	1,000
(平成14年)		(昭和45年)	
小林 秀太郎	1,000	那須 礼子 (鳥影)	1,000
小林 秀太郎	1,000	(昭和46年)(昭和48年)	
(平成19年)		(昭和52年)(昭和56年)	
浅見 早智	5,000	吉原 四姉妹	5,000
関 真友子	1,000	(昭和47年)	
(平成21年)		川上 欽一郎	3,000
関 大輝	1,000	(昭和48年)	
(平成27年)		齋藤 美也 (倉持)	1,000
津野 拓海	2,000	福田 久仁子	1,000
匿名	1,000	(昭和49年)	
(平成28年)		江口 みどり	2,000
伊藤 朔之助	1,000	(昭和50年)	
(平成31年)		山田 千栄子 (浅山)	1,000
篠塚 太希	1,000	(昭和51年)	
(令和2年)		(故) 齋藤 元誉	10,000
山本 紫	1,000	寺腰 優	1,000
		(昭和52年)	
		寺澤 紀子 (足達)	5,000



# 令和2年度150周年基金寄付者ご芳名録

2020（令和2）年7月1日～2021（令和3）年6月30日（順不同 敬称略）

谷口 全男	2,000	(旧職員)	
本田 貫一	2,000	栗田 千恵子	1,000
北村 忠司	2,000	(昭和8年)	
山越 安代 (岩田)	2,000	(故) 佐藤 欽子 (渡邊)	5,000
(故) 伊東 範行	1,000	(昭和10年)	
鈴木 茂男	1,000	(故) 北川 康子 (本間)	5,000
(昭和32年)		(昭和13年)	
森脇 薫代 (大澤)	5,000	坂 園子 (畑)	1,000
岩崎 美栄子 (大川)	2,000	(昭和14年)	
関野 昭幸	2,000	太田 善朗	2,000
西明 帝子 (内藤)	1,000	歌代 三郎	1,000
(昭和33年)		(昭和17年)	
加田 康八	5,000	名取 節子 (志村)	1,000
神谷 良夫	2,000	(昭和18年)	
湯浅 晴江	1,000	瀬川 幸雄	4,000
平井 善夫	1,000	(昭和19年)	
(昭和34年)		建石 壯一	1,000
橋詰 卓佐枝	5,000	(昭和20年)	
樋山 憲治	2,000	(故) 松田 和美 (西田)	5,000
尾澤 道夫	2,000	池本 智美子	5,000
高橋 弘道	1,000	中村 芳子	3,000
渡辺 誠	1,000	(昭和21年)	
(昭和35年)		村松 重徳	10,000
小山 哲司	4,000	山田 良三	2,000
安部田 貞昭	3,000	遠藤 光子 (牧野)	2,000
横田 和博	3,000	掛川 宣雄	1,000
横島 邦子 (岩田)	2,000	一色 せつ子	1,000
青木 信雄	1,000	(昭和24年)	
(昭和36年)		山田 春江 (吉田)	2,000
小川 眞佐子 (堀口)	3,000	(昭和26年)	
大西 隆	2,000	竹内 輝雄	1,000
井上 泰子 (吉村)	1,000	匿名	7,000
東 章二 (樋山)	1,000	(昭和28年)	
土屋 つや子	1,000	松原 亨	5,000
中島 務	1,000	五島 秀幸	3,000
(昭和37年)		戸賀崎博保	2,000
説田 好伸	10,000	天羽 弘子 (館)	2,000
中谷 久子 (笠井)	6,000	菊島 紀美子	2,000
田中 豊	2,000	匿名	1,000
飯島 孝夫	2,000	杉田 充規	1,000
山田 ふじ子 (江口)	1,000	(昭和29年)	
河野 晴行	1,000	花嶋 扶治子 (西宮)	3,000
関 眞弓 (目黒)	1,000	矢島 壮太郎	2,000
吉村 博	1,000	鈴木 貞臣	1,000
新井 正子 (山本)	1,000	(昭和30年)	
佐々木 美知子 (飯田)	1,000	小黒 通顕	2,000
村田 慎一	1,000	齊藤 和臣	1,000
荒井 豊	1,000	(昭和31年)	
柳田 博光	1,000	島村 宏和	5,000
(昭和38年)		小坂 政子 (志村)	4,000
鈴木 裕基子	8,000	千原 ゆう子 (加藤)	2,000

(昭和53年)		渡辺 和代 (小関)	5,000
小鹿 篤	10,000	荻原 登志子 (齊藤)	1,000
川口 修一郎	5,000	(昭和39年)	
(昭和54年)		河西 英子 (西村)	1,000
河合 啓江 (川端)	3,000	笠井 秀一	2,000
(昭和56年)		(昭和41年)	
松田 由起子	2,000	遠藤 眞喜子 (大山)	1,000
黒澤 範子 (岡野)	1,000	DUNN 美江 (長井)	1,000
杉山 寿英	1,000	前田 賀子	1,000
横溝 桃子	1,000	上野 一美 (小沢)	5,000
(昭和58年)		中島 豊六	5,000
藏田 竜一	10,000	(昭和43年)	
(昭和59年)		山田 寿和	2,000
藏田 重二	10,000	小川 健二	1,000
神保 貴	10,000	(昭和45年)	
田口 弘明	5,000	栗田 和雄	30,000
中川 康二郎	1,000	那須 礼子 (島影)	1,000
(昭和61年)		中島 昌枝	1,000
新井 絵美子	1,000	(昭和46年)	
新井 絵美子	1,000	小倉 伊佐子 (山越)	10,000
(昭和62年)		大野 由貴子 (吉沢)	5,000
郷坪 育子 (清水)	2,000	宇田川 有智子 (倉田)	1,000
藏田 幸三	1,000	(昭和46年) (昭和48年)	
匿名	50,000	(昭和52年) (昭和56年)	
(昭和63年)		吉原 四姉妹	5,000
曾我 竜也	3,000	(昭和47年)	
(平成3年)		川上 欽一郎	1,000
西沢 俊昭	1,000	(昭和48年)	
(平成10年)		福田 久仁子	1,000
浦上 真貴子 (宮下)	1,000	(昭和49年)	
(平成14年)		鈴木 一彦	10,000
小林 秀太郎	1,000	江口 みどり	2,000
小林 秀太郎	1,000	(昭和50年)	
(平成20年)		山田 千栄子 (浅山)	1,000
藤澤 大志	2,000	(昭和51年)	
(平成27年)		(故) 齋藤 元誉	20,000
津野 拓海	2,000	三部 健	10,000
匿名	1,000	田辺 明彦	10,000
(平成28年)		寺腰 優	1,000
伊藤 朔之助	1,000	(昭和52年)	
(平成31年)		寺澤 紀子 (足達)	5,000
篠塚 太希	1,000	松田 直美	2,000
(令和2年)		岡野 栄一	2,000
山本 紫月	1,000	阪田 達朗	1,000





## 令和2年度会費納入者ご芳名録

2020（令和2）年7月1日～2021（令和3）年6月30日（順不同 敬称略）

中島 昌枝 (昭和46年)	(昭和36年)	阿部 雅博 齋藤 喜美枝	(旧職員)
宇田川 有智子(倉田)	新谷 聖法	岩岡 隆	松岡 秀子
(昭和47年)	山鹿 雅夫	大塚 照男	平野 小夜子
川上 欽一郎	井上 泰子(吉村)	(昭和30年)	(昭和13年)
(昭和48年)	小川 眞佐子(堀口)	萩小田 幸子(五島)	坂 園子(畑)
齋藤 美也(倉持)	大西 隆	上野 徳男	(昭和14年)
福田 久仁子	松木 教子(田中)	山鹿 輝夫	太田 善朗
(昭和49年)	東 章二(樋山)	小黒 通顕	歌代 三郎
江口 みどり	土屋 つや子	齊藤 和臣	(昭和17年)
(昭和50年)	中島 務	萩小田 幸子	背山 照子(名和)
山田 千栄子(浅山)	内田 君子(笠井)	(昭和31年)	名取 節子(志村)
栗田 和明	山口 洋子(石村)	千原 ゆう子(加藤)	(昭和18年)
(昭和51年)	新谷 聖法	谷口 全男	瀬川 幸雄
三部 健	(昭和37年)	小坂 政子(志村)	(昭和19年)
寺腰 優	中谷 久子(笠井)	本田 貫一	杉山 紀子(川口)
田辺 明彦	中村 好伸	(故)伊東 範行	建石 壯一
(昭和52年)	中村 正信	北村 忠司	(昭和21年)
松田 直美	中谷 久子(笠井)	鈴木 茂男	福田 錦二
関屋 法生	鈴木 健文	稲崎 祥二	中村 作二
岡野 栄一	山田 ふじ子(江口)	山越 安代(岩田)	山田 良三
阪田 達朗	河野 晴行	(昭和32年)	三井 正昭
寺澤 紀子(足達)	関 眞弓(目黒)	岩崎 美栄子(大川)	掛川 宣雄
(昭和53年)	吉村 博	森脇 薫代(大澤)	村松 重徳
川口 修一郎	新井 正子(山本)	西明 帝子(内藤)	遠藤 光子(牧野)
林 克洋	佐々木 美知子(飯田)	関野 昭幸	一色 せつ子
小久保 明美(鶴澤)	田中 豊	郷 金二郎	(昭和23年)
(昭和56年)	飯島 孝夫	(昭和33年)	越森 馨子
松田 由起子	村田 慎一	小田切 勝昭	(昭和24年)
細尾 浩行	荒井 豊	湯浅 晴江	山田 春江(吉田)
大塚 ふさ子	柳田 博光	野口 英一	(昭和26年)
岩本 光弘	(昭和38年)	加田 康八	竹内 輝雄
関戸 菜美(西川)	齋藤 三保(鈴木)	平井 善夫	小島 朝乃
浅沼 紀杜	渡辺 和代(小関)	辻 尚平	匿名
鈴木 隆之	鈴木 裕基子	神谷 良夫	(昭和27年)
安田 俊之	萩原 登志子(齊藤)	(昭和34年)	渡辺 俊夫
西岡 壮一	本間 和夫	橋詰 阜佐枝	(昭和28年)
黒澤 範子(岡野)	笠井 秀一	高橋 弘道	平田 光子(坂本)
濱田 昌美(上野)	笠井 秀一	樋山 憲治	戸賀崎博保
飯田 恵美子(安岡)	河西 英子(西村)	尾澤 道夫	匿名
川原 摩里	(昭和41年)	渡辺 誠	染谷 政孝
曾根 裕	鈴木 良一	(昭和35年)	杉田 充規
長澤 裕子(奥山)	遠藤 眞喜子(大山)	青木 信雄	佐藤 公一
増尾 由里(石井)	DUNN 美江(長井)	立原 正雄	平田 光子(坂本)
伊藤 薫(吉川)	前田 賀子	横島 邦子(岩田)	松原 亨
石橋 由美(和久井)	(昭和43年)	安部田 貞昭	天羽 弘子(館)
杉山 寿英	小川 健二	高木 為嗣	菊島 紀美子
宇多 清二	山田 寿和	横田 和博	五島 秀幸
高野 勇二	(昭和45年)	江森 則雄	(昭和29年)
平尾 文子(五十嵐)	那須 礼子(鳥影)	小山 哲司	矢島 壮太郎
谷口 滋子(小林)	栗田 和雄		鈴木 貞臣
			長坂 晴男

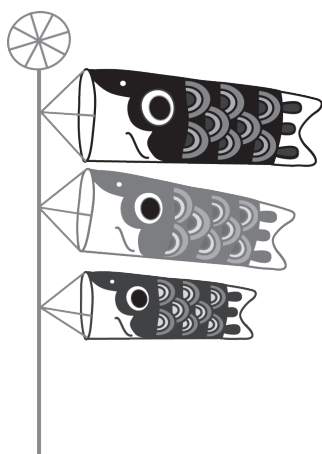
(平成27年) 津野 拓海 匿名 (平成28年) 伊藤 朔之助 (平成29年) 矢野 碧人 (平成31年) 篠塚 太希 (令和2年) 山本 紫月 石崎 純 武田 弘美	(平成3年) 西沢 俊昭 (平成4年) 鈴木 由美子(上野) (平成10年) 浦上 真貴子(宮下) (平成13年) 櫻井 隆介 (平成14年) 小林 秀太郎 小林 秀太郎 (平成19年) 浅見 早智 (平成20年) 藤澤 大志	(昭和60年) 森川 光代(上野) (昭和61年) 新井 絵美子 上野 耕司 新井 絵美子 (昭和62年) 郷坪 育子(清水) 藏田 幸三 匿名 (昭和63年) 曾我 竜也 (平成元年) 森 量裕	齋藤 淳子(小長谷) 高木 謙次 高橋 一泰 横山 ちさ子(岡田) 横溝 桃子 柴 友徳 増田 都(鹿村) 前田 実 関根 弘子 高橋 由布 (昭和59年) 田口 弘明 岩本 英和 中川 康二郎 神保 貴
---	---	---	--

<p>株式会社 <b>大森製パン</b></p> <p>広田 道子(大森・昭和21年) 秀之(昭和51年) 隆之(昭和57年)</p>	<p><b>鳳凰軒</b></p> <p>中央区日本橋馬喰町2-5-7 (鳳凰軒ビル1F) TEL 03-3661-1987 熊倉 由子(昭和57年)</p>
<p><b>EVENT RANGERS</b> <a href="https://event-rangers.jp/">https://event-rangers.jp/</a></p> <p>株式会社イベント・レンジャーズ corpo_toiawase@event-rangers.jp</p> <p>松宮 洋昌(S57)</p>	<p>トランクルームの スッキリBOX タチバナエステート(株) 日本橋浜町2-56-1 03-3667-6641 橘 知範(昭57) 橘 果穂(平26) 橘 実紀(平28) 橘 和香奈(平31)</p>
<p>(株)三優小長谷 03-3667-7353 昭和58年卒 小長谷充 昭和56年卒 齊藤淳子</p>	<p>フレンチカフェ シェ・アンドレ ドウ・サクレクール 人形町1-8-5 TEL 03-6228-1053 益川 良雄(昭和58)</p>

## 令和3年度会費納入者ご芳名録

2021/7/1～2022/3/28の期間に年会費、基金、150年基金を頂戴した方のお名前です。改めて、次号46号で金額とともにご紹介いたします。

<p>(昭和56年) 齊藤 淳子 (小長谷) (令和2年) 田口 大遙</p> <p>■150周年基金寄付者 (昭和21年) 山田 良三 (昭和22年) 江波戸 敏匡 (昭和29年) 石川 みさ子 (昭和31年) 田島 正雄 矢口 弘夫 (茄子倉) (昭和41年) 中島 睦喜 (昭和43年) 小柴 基男 (昭和45年) 井上 武 (5名分) (昭和48年) 矢成 伸子 (川井) (昭和53年) 川口 修一郎 (昭和56年) 齊藤 淳子 (小長谷) (令和2年) 田口 大遙</p>	<p>■基金寄付者 (昭和11年) (故)山本 富美子 (福田) (昭和21年) 山田 良三 福田 錦二 (昭和22年) 江波戸 敏匡 (昭和24年) 山田 春江 (吉田) (昭和31年) 田島 正雄 (昭和34年) 橋詰卓佐枝 (昭和36年) 山口 洋子 (石村) (昭和37年) 匿名 (昭和41年) 中島 睦喜 (昭和43年) 小柴 基男 (昭和45年) 井上 武 (5名分) (昭和48年) 矢成 伸子 (川井) (昭和51年) 渡辺 正博 三部 健 (昭和53年) 川口 修一郎</p>	<p>中村 正信 (昭和38年) 大塚 京子 (河合) (昭和39年) 山崎 行治 (昭和41年) 中島 睦喜 (昭和42年) 山崎 心五 (昭和43年) 小柴 基男 (昭和45年) 井上 武 (5名分) (昭和46年) 松原 淳子 (山崎) 大野 由貴子 (吉沢) (昭和48年) 矢成 伸子 (川井) (昭和51年) 渡辺 正博 三部 健 (昭和53年) 川口 修一郎 (昭和56年) 齊藤 淳子 (小長谷) (昭和63年) 上田 絵里子 (中川) (令和2年) 田口 大遙</p>	<p>■年会費納入者 (昭和19年) 杉山 紀子 (川口) (昭和21年) 三井 正昭 山田 良三 中村 作二 福田 錦二 (昭和22年) 江波戸 敏匡 (昭和24年) 山田 春江 (吉田) (昭和27年) 渡辺 俊夫 (昭和29年) 石川 みさ子 (昭和30年) 山鹿輝夫 (昭和31年) 神尾 公子 田島 正雄 矢口 弘夫 (茄子倉) (昭和34年) 山崎 文三 橋詰卓佐枝 (昭和36年) 山口 洋子 (石村) (昭和37年) 小倉 裕子 匿名 中谷 久子 (笠井)</p>
--	--	---	--



### 川名司法書士事務所

司法書士・社会保険労務士

川名 清成

〒103-0004 中央区東日本橋1-2-2 吉村ビル3F  
TEL03-5829-5991 FAX03-5829-5992  
mail k.Kawana.office@gmail.com  
川名富士子 (齊藤) 昭和55年卒

### 正田パッケージ株式会社

〒103-0007 中央区日本橋浜町 2-25-4

朱乃 (平22)

雄太郎 (平25)

和花子 (平27)

### (有) 福雅

横山町 4-5

TEL 03-3663-7211

代表取締役 福田 喜一 (昭44)



## らんどせる

### 年会費・校友会基金にご協力を

今年もまた別表の通り、多くの方々から、貴重なご芳志をお寄せいただきました。引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。

金額は一口1,000円で口数は任意です。また、年会費は1名分1,000円となっております。

**【郵便振替】** 払い込み手数料は無料ですが、現金支払いの場合は1件110円の払込人負担が加算されますのでご負担下さい。通帳・キャッシュカード利用の場合は加算対象外です。

**口座名** 久松小学校校友会  
**口座番号**

東京00190 7 189503

尚、払込用紙には卒業年組をお書き下さい。送付封筒のお名前の後に記載があります。

**【銀行振込】** 振込手数料はご負担ください。

みずほ銀行横山町支店  
普通1482776

**口座名** 久松小学校校友会  
銀行振り込みの場合、送付封筒に記載してある卒業年度をお名前の前にご記入ください。卒業年不明の場合は、生年月日をご記入ください。

**【手渡し】** 手渡しでも受け付けます。お近くの校友会運営委員にお渡しください。

基金、150周年行事基金に合計1万円以上のご寄付をいただいた方  
に、お礼の品(校友会特製ノート)を送らせて頂きます。



### ホームカミングデーのお知らせ ご卒業50周年の皆さんへ

いくつになっても母校は良いもの。まして懐かしい恩師・旧友に再会できるならなおさらです。校友会で、こころゆくまでご歓談ください。

### 今年成人式を迎えられた方

二十歳の校友を、校友会へお招きすることにいたしました。お友達同士声を掛け合いご出席下さい。

### 令和5年校友会のお知らせ

令和5年の校友会は5月28日(日)の予定です。年度幹事は昭和58年、平成5年、平成15年、平成25年卒の方々です。

皆様にお会いできることを楽しみにしております。

ホームカミングは昭和48年卒の皆様です。また二十歳の校友は、平成27年卒の皆様です。ホームカミングおよび二十歳の校友の皆様方は2023年(令和5年)の校友会にご招待申し上げます。

なお、コロナ禍により校友会でお会いできなかった皆さん、ふるってご参加ください。

毎年総会には、校長、副校長、PTA運営委員、近隣町内会、久松こども応援会(パパ会)、青少年対策地区委員会の皆様からご後援をいただいております。

## 原稿募集

クラス会や同期会の原稿を募集します。次号第46号の締切は2023年1月末日です。

1. 文字原稿のみの場合は、本文が1100字以内で、写真を1枚併載する場合は、800字以内でお願いします。
2. 原稿冒頭に会の名称、卒業年、組、執筆者名を明記願います。
3. パソコンで作成された原稿の場合は、CD等の添付をお願いします。メールでのデータ添付も可能です。詳しくは下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

## 広告募集

あなたのお店や会社の広告を載せてみませんか？

多くの卒業生に読まれている「校友会だより」に、クラス会や同期会、同窓会、野球の勧誘、サークルのお誘いなどを掲載しませんか。広告料は下記の通りです。「校友会だより」の発刊を大きく支えている広告に、ぜひご協力ください。来年4月発行の本誌第46号に、広告掲載をご希望の方は、校友会メールアドレスまでご連絡下さい。

サイズ	料金	サイズ	料金
1P	120,000	1/2P	60,000
1/4P	30,000	1/8P	10,000
1/16P	5,000		

## 住所が変わられた方へ

住所を変更された方は、下記お問い合わせ先へお届け下さい。「校友会だより」が配達できません。また本誌がご不要の方もご連絡下さい。いずれもご住所、お名前(旧姓)、ご卒業年又は生年月日、組、卒業時の恩師名をお伝え下さい。

なお、住所に関する連絡はホームページでも受け付けています。P.36のQRコードをご活用下さい。

## お問い合わせ先

校友会本部は、母校内に設けられておりますが、役員は常駐しておりません。文書は従来通り学校宛に郵送いただいて結構ですが、現金書留はお受けできません。

### 中央区立久松小学校内 校友会事務局

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町7-2

TEL 03-3661-6016 (代)

FAX 03-3668-2365

Email : hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会ホームページ :

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ

## 個人情報の取り扱いについて

### 中央区立久松小学校校友会

当会は個人情報の利用に関し、以下に掲げる事項を遵守します。

- ①個人情報の保護に関する法律に基づき、会員の個人情報等を以下の目的にのみ使用します。  
校友会名簿管理・校友会だより送付・校友会運営・クラス会準備に必要な連絡。
- ②会員の公表されていない情報を、適切な運営の確保やその他必要と認められる目的以外に使用しません。

## 校友会のホームページについて

2021年5月に校友会のホームページをリニューアルしました。ホームページでは、校友会総会のご案内、校友会だよりに関する情報、校友会の活動、運営委員会等の開催案内について発信しています。

また、校友会だよりは第44号からホームページでオンラインでの配布を行っています。

さらに、皆様方からの住所変更、住所連絡、校友会だより配送停止、校友会だより配送再開などの連絡を受け付けています。

一度、校友会のホームページにもお越しく下さい。ホームページには以下のQRコードをご使用ください。

校友会ホームページ：

<https://www.hisamatsu-es-koyukai.com>



校友会ホームページ



住所変更・連絡  
配送停止・再開など



校友会総会のご案内

### 訃報

坂入輝久（昭和三十一年卒業）

令和三年五月逝去。校友会常任幹事、松友会理事として長年ご尽力。母校斜め前にあった鶏肉専門店「鳥安」を経営。昭和四十八年「拡大校友会」スタート時から、先代ご夫妻を含め一家総出でご協力下さいました。総会の時、校庭で提供される焼き鳥は、校友にとって「ふるさとの味」でした。ご冥福をお祈りいたします。

経費削減のため同一住所には1冊のみ発送させていただきました。従来通り複数冊の送付をご希望の場合は、校友会までご連絡ください。

〈表紙題字〉 故 大石隆子先生

〈表紙写真〉 久松スカイプール&グリーンアリーナ

校友会だより第45号 定価500円（送料込）

2022（令和4）年4月1日発行

編集・発行 中央区立久松小学校校友会

〒103-0005 中央区日本橋久松町7-2



事務用品・OA用品・印刷

株式会社 **かめや**

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-23-7  
TEL 03-3666-5221 FAX 03-3667-3140

E-mail [info@kameya-st.co.jp](mailto:info@kameya-st.co.jp)  
URL <http://www.kameya-st.co.jp>

代表取締役 **渡辺 政博** (昭和51卒)



**外川 隆康**  
**外川 光久**

〒103-0005  
東京都中央区日本橋久松町10番10号  
(久松ビル)

TEL (03) 3661-3211(代)  
<http://www.hisamatsu.co.jp>

(有)高虎商店

祭礼及び店用等半纏、てぬぐい、  
のれん、袋物の製作販売

中央区日本橋浜町 2-45-6

高橋 堅 (昭54)  
高橋 由布 (昭56)  
高橋 巧 (昭58)



相続・遺言のご相談なら  
**相続まるごと支援センター**  
(税理士法人よしむら)

千葉県松戸市西馬橋5-1-5  
みんな やさしいよ  
TEL 0120-37-8344  
吉村 博 (昭37卒)

中央区東日本橋 2-10-4

とんかつ  
生姜焼き  
ラーメン

**三好弥**

電話 03-3866-3448  
03-3863-3448



**日本橋かわまた内科クリニック**  
内 科・循環器内科・糖尿病内科

日本橋富沢町 10-18 ☎ 03-3669-2626

**川俣 博文**

人形町 めん処

**依々舟**

人形町2-22-6  
☎03-3664-1117

青野 京子 (柴山) (昭和45年卒)  
竜也 (平成6年卒)  
敏之 (平成8年卒)

職場のユニホーム製造卸

株式会社 **原利商店**

横山町5-8奉仕会館2F ☎3661-6711

原 由美子 (昭30)  
千依子 (昭58)  
有加子 (昭63)

季節の和菓子

**三迺舎**

富沢町16-3  
03-3661-5891

石川みさ子 (昭29卒)  
石川 剛 (昭57卒)  
石川ひかる (平25卒)



**中川印刷株式会社**

03-3851-6324  
[info@p-nakagawa.com](mailto:info@p-nakagawa.com)

中川 栄一郎 (S57)  
中川 康二郎 (S59)

<p>洋装雑貨卸 <b>(株)細谷商店</b> 横山町8-7 細谷 昌宏(昭36)</p>	<p>竹内 輝雄(昭26) 喜美子(昭30) 素子(昭43) 日本橋大伝馬町12-8 TEL(3661)2380</p>
<p>コンピュータから事務用品まで 株式会社 <b>リーチ</b> 横山町10-5 TEL 3664-5351 中村 雅昭(昭36) 中村 祐司(昭40) 中村(宮田) 順子(昭43)</p>	<p><b>(有)川名薬局</b> 東日本橋3-7-3 ☎3661-9146 川名 信一(昭27) あかり(平27) 純一(昭58) 海 喜(平30) 佐智子(昭61)</p>
<p><b>FUKUMOTO</b> 株式会社 <b>フクモト</b> TOKYO 本社 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-1-4 TEL 03-3663-8541(代) FAX 03-3661-0360 福本 義朗(S37)</p>	<p>タオル・フロシキ・手拭他卸 <b>(株)戸田商店</b> 東日本橋3-8-5 ☎3661-9111 代表取締役 戸田 昌男(昭28)</p>
<p>日本橋の紙鍋 <b>「紙やきホルモサ」</b> 本町1-10-2 江戸橋北 平成4年卒 坂田誠一郎</p>	<p><b>カヌラ堂</b> 東日本橋2-16-9 ☎3861-2566(代) 後藤 公夫(昭29)</p>
<p>本場大島紬・結城紬・高級呉服卸 株式会社 <b>丸大商店</b> 太田 雅久(昭37卒) 〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目3番13号 電話：03-3851-6384 FAX：03-3851-6385</p>	<p>焼鳥 <b>よし田</b> 吉田 実(昭31) 雄一(昭60) 豊(昭62)</p>
<p>創業明治17年 酒類卸・酒販店・カクウチ <b>株式会社岡永</b>  <b>日本名門酒会 / 岡本屋永吉商店</b> 〒103-8380 東京都中央区日本橋馬喰町1-7-3 <a href="https://www.meimonshu.jp/">https://www.meimonshu.jp/</a></p>	<p>酒類販売 <b>(株)勢州屋本店</b> 富沢町10-15 03-3662-3721 岡田 玲子(昭32) 岡田 舞佳(平22) 横山ちさ子(昭56) 悠佳(平24) 岡田 昇也(昭58) 横山 里佳(平23) 梨乃(平23)</p>
<p> 中央区日本橋馬喰町1-4-11 <b>有限会社古今</b> Tel 5642-7575 近藤栄美子(松島)(昭40卒) 江川安喜子(松島)(昭45卒) 江川 史朗 (平14卒) 江川 輝 (平17卒)</p>	<p><b>花楨生花店</b> 東日本橋2-3-2 TEL 3851-8761 植野 光弘(昭34) 中原 恵未(平4) 植野 良一(平6)</p>
<p><b>小沢株式会社</b> 東日本橋3-4-7 3662-0475 上野 一美(昭41) 小澤 正彦(昭43) 吉田 文恵(昭46)</p>	<p>タオル・手拭い各種名入れ <b>有限会社 平松</b> 東日本橋1-3-6 TEL 03-3851-5091 矢川 春文(昭54) 美香(平18) 香織(平27)</p>



<p><b>井上電気商会合同会社</b> 日本橋浜町2-22-5 ヴィラハイツ浜町101号 ☎ 3661-1627(代) FAX 3661-1673 井上 頼延(昭45) 長田(井上)慧美(平14) 井上 光智(平15) 井上 優(平18)</p>	<p> 久松小学校 校旗作成の実績  株式会社 <b>三上旗店</b> 三上 明夫(昭和43年卒) TEL:03-3663-8841 <a href="http://www.mikami-flag.co.jp">http://www.mikami-flag.co.jp</a></p>
<p> MARCHENART マルヘンアート 株式会社 <a href="http://www.marchen-art.co.jp">www.marchen-art.co.jp</a> 藤澤とみ子(昭50) 川端 康裕(昭51) 河合 啓江(昭54) 川端 昭宣(昭57) 〒130-0015 東京都墨田区横網2-10-9 TEL. 03-3623-3760 FAX. 03-3623-3766</p>	<p><b>(有) 三栄電機</b> 馬喰町1-5-16 ☎3661-1671 山本 功(S43) 井上 京子(S51) 幸夫(S53)</p>
<p><b>(株) 三協堂</b> 〒103-0007 日本橋浜町1-6-1 TEL 3866-1554(代表) FAX 3861-5726</p>	<p>EST.  1930 <b>小宮商店</b> KOMIYA SHOTEN 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-9-7 TEL 03-3661-9064 小宮 武 小宮 隆明</p>
<p><b>初音森神社</b> 東日本橋2-27-9 TEL 3863-1308 田部 裕子(昭48) 景子(平14)</p>	<p>野球ユニフォーム・Tシャツ・ウインドブレーカー <b>(株)タキ</b> 中央区東日本橋1-1-19-4F TEL 03-3851-7714 代表 瀧 賢治(昭47卒)</p>
<p><b>ダイヒロバッグ株式会社</b> 横山町3-7 TEL 3664-8901(代) 代表取締役社長 村上 浩一郎</p>	<p>鳥井 龍吾(昭47卒) 大吾(平14卒) 玲美(平17卒) 眞美(平22卒)</p>
<p> <b>(有)大嶋屋本店</b> 取締役社長 村山 均 〒103-0003 中央区日本橋横山町7-18 Tel:03-3663-7031 Fax:03-3663-7030</p>	<p>理・美容 谷口育子の店 中央区福祉サービス券 承ります 東日本橋2-16-4 3851-4520 谷口 育子 瀬戸口 順子(S47) 貴志(H12) 潔(H19) 湧見(H14) 毅(H20)</p>
<p> <b>株式会社マスター</b> カバン・ビジネスバッグ・スクールバッグ 他 <b>増田 義雄</b> 〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町3-6 TEL 03-3663-4561 FAX 03-3663-4570 URL <a href="http://www.master1.co.jp/">http://www.master1.co.jp/</a> e-mail:info@master1.co.jp/</p>	<p>町ぐるみで開業。キッズスクール (学童保育)  <b>まちいく</b> キッズスクール 公式LINEはコチラ  東京都中央区東日本橋2-6-7</p>
<p> <b>株式会社 角石</b> 中央区日本橋横山町 2-1 tel:03-3661-9481 <a href="http://www.kakuishi.jp">http://www.kakuishi.jp</a></p>	<p><b>(株)精華堂あられ総本舗</b> 江東区清澄3-10-5 TEL 03-3641-9288 桑原 万代(昭53年卒) 清水 慶太(昭55年卒) 斉藤 夕子(昭57年卒) 桑原 拓也(平16年卒) 桑原 みらの(平20年卒) <a href="http://www.seikadoarare.co.jp">http://www.seikadoarare.co.jp</a></p>

呉服卸  
**(株)飯島商店**

中央区東日本橋3-9-5  
TEL 3661-3610

飯島 孝夫 (昭37)  
飯島 邦雄 (昭43)



ファッション専科総合卸  
**株式会社 宮入**

日本橋横山町6-18  
TEL03-3663-5211

京呉服卸

株式会社 **山 富**

山鹿 輝夫 (昭30)

日本橋堀留町2-8-11

電話 3661-4097

踊・祭衣装

日本の歳時記 製造発売元

株式会社 **佐藤 万**

佐藤 寛 (昭30)

久松町6-5

☎3664-3611

Eメールアドレス satoman@path.ne.jp

ホームページアドレス  
<http://www.nihon-no-saijiki.co.jp>

**(有)大坂屋不動産**

東日本橋1-2-5  
TEL 03-3862-3206

吉村 正人 (昭35卒)

小泉 知子 (昭41卒)  
(旧姓 吉村)

境界調査測量、建物登記手続  
**吉村測量登記事務所**

東日本橋1-2-5  
TEL 03-3862-3208

土地家屋調査士

吉村 正人 (昭35卒)

携帯電話関連商品

株式会社 **サンゴ**

代表取締役 **黒澤 関則**  
**陽子**

(旧姓 小池 昭34卒)


〒131-0043 東京都墨田区立花1-23-5-202-2  
TEL 03-5247-4697

文化を創り、文化を築く。

**L!FE**

ライフ株式会社

〒121-0836 東京都足立区入谷6-2-6  
東京文紙流通センターB棟  
TEL: 03-3855-1261 FAX: 03-3857-6304  
<http://life-st.jp/>

<p>袋物卸  <b>株式会社 正木屋</b>          横山町 7-7          TEL 03-3661-6849</p> <p>説田 好伸(昭和37卒)          萩野(旧姓 説田)葉子(昭和39卒)</p>	<p>150周年          おめでとうございます</p>  <p>中谷 久子 (昭37卒)          笠井 秀一 (昭39卒)</p>																
<p><b>OFFICE NET</b> <a href="https://www.hayashiya.com/">https://www.hayashiya.com/</a></p> <p><b>株式会社 林屋</b>          横山町1-4          Tel 03-3661-7402</p> <p>林 慶造 (S37)          水野 一恵 (S62)          林 千恵 (H3)          林 千奈 (H30)</p>	<p><b>バレエ教室</b>  <b>スタジオパートワン</b></p> <p>学園長          城野満佐子(昭35卒)</p> <p>中央区日本橋大伝馬町17-3          ☎03(3661)0425</p>																
<p style="text-align: center;"><b>昭和57年卒業生</b></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">中川 栄一郎</td> <td style="width: 50%;">小山 剛史</td> </tr> <tr> <td>山下 善照</td> <td>揃 孝子 (小林)</td> </tr> <tr> <td>石川 剛</td> <td>田中安樹子 (正村)</td> </tr> <tr> <td>松宮 洋昌</td> <td>橘 知範</td> </tr> <tr> <td>伊藤 嘉浩</td> <td>山平 真実 (中川)</td> </tr> <tr> <td>広田 隆之</td> <td>前橋 克拓</td> </tr> <tr> <td>田口 孝広</td> <td>佐藤 由紀</td> </tr> <tr> <td>村田 裕之</td> <td></td> </tr> </table>		中川 栄一郎	小山 剛史	山下 善照	揃 孝子 (小林)	石川 剛	田中安樹子 (正村)	松宮 洋昌	橘 知範	伊藤 嘉浩	山平 真実 (中川)	広田 隆之	前橋 克拓	田口 孝広	佐藤 由紀	村田 裕之	
中川 栄一郎	小山 剛史																
山下 善照	揃 孝子 (小林)																
石川 剛	田中安樹子 (正村)																
松宮 洋昌	橘 知範																
伊藤 嘉浩	山平 真実 (中川)																
広田 隆之	前橋 克拓																
田口 孝広	佐藤 由紀																
村田 裕之																	



## 日本橋中央歯科

Nihonbashi Central Dental Clinic

各種	保険	治療
一	般	歯科
小	児	科
矯正	歯	科

受付はAIロボットが対面非接触で対応します。

〒103-0007

中央区日本橋浜町2-11-2

日本橋中央ビル2F



TEL **03-3664-8556**

## 物流業

食品・チルド・一般雑貨物流 倉庫業務

## 八大株式会社

日本橋人形町2-16-7

TEL 03-5534-2711

岩田 享也(昭61卒)

諸鳥鶏卵卸

## 資) 大金鳥店

大橋 純子 (昭54)

鈴木 博子 (昭56)

(旧大橋)

大橋 晴代 (昭58)

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-5-6

TEL 03-3667-2441

FAX 03-3667-2400

～幸せの香りにつつまれる洋菓子店～

Maison grâce *Ange*<sup>アンジュ</sup>

お近くにお越しの際は、ぜひご来店ください。

〒227-0062

横浜市青葉区青葉台2-26-1 スクエアハイツ1-C

TEL 045-988-5527 / FAX 045-988-5528

<http://www.ange-japon.com>

小針 悟・紗季  
(昭和56 岩本光弘)

## 安田不動産

建築に関するコンサルティング

# ARK

(有)アークオオツカ

03-3631-3156

大塚 照男 (S29年卒)

大塚 義男 (S27年卒)

大塚 真一郎 (S54年卒)

大塚 ふさ子 (S56年卒)



総合卸

株式会社エトワール海渡

ETOILE

代表取締役社長

早川 謹之助

〒103-8370

東京都中央区日本橋馬喰町1-7-16

電話 03-3661-1111(代)

[www.etoile.co.jp](http://www.etoile.co.jp)



包装資材総合卸

株式会社ニシムラ

西村 吉隆 (昭51)

西村 仁美 (平13)

西村 優実 (平18)

西村 隆介 (平23)

墨田区立川4-13-10

TEL 03-3635-3161

東京都中央区日本橋久松町 10-8

中華料理 **福**

TEL 03-5651-0866

**伊东旅飯** 

ITORYOKAN

人形町 2 - 31 - 3

TEL 03 - 3666 - 6675

杉山 寿英 (昭56年卒)

**立石 晴康**

(昭和29年卒)



新川屋  
**佐々木酒店**

甘酒横丁

日本橋人形町2-20-3

**TEL:03-3666-7662**

**FAX:03-3668-2553**

**www.Sasas.jp**

**和仁輪仁**

代表 川口 修一郎 (昭53)  
川口 泰輝 (昭55)  
川口 正峰 (昭63)  
川口 祐ノ輔 (平19)  
川口 祐徳 (平21)  
川口 祐紀賀 (平24)

焼鳥

**おが和**

人形町3-11-2

TEL 3661-8711

岩上 敬一 (昭38年卒)

佳夫 (平6年卒)

本は人生を豊かにし、雑貨は生活を豊かにする、  
そして笑顔は心を豊かにする

**アスカブックセラーズ**

中央区東日本橋2-2-4-1階 東日本橋駅前

幼児・幼年雑誌、絵本、図鑑、学習ドリル、ジャポニカ学習帳、学童  
文具、キャラクター雑貨、パスボール、食器など豊富な品揃えです。  
本、CD、DVD、洋書などをネットで注文、店頭で受け取る「e-hon」  
新規会員募集中！ (国内最大級150万点の品揃え・送料・手数料無料)



**河邊健太郎** (昭和57年卒業・6年2組)

**千葉 文** (河邊・昭和59年卒業)



家内安全・商売繁盛・交通安全・厄除他  
御祈願随時受付けております。

## 笠間稲荷神社

中央区日本橋浜町二丁目十一番六  
電話 ○三二三六六六―七四九八  
FAX ○三二三六六六―七四三八

江戸三大不動  
大本山 川崎大師 東京別院  
**薬研堀不動院**  
厄除・商売繁昌・開運

TEL. 03-3866-6220

御府内八十八ヶ所第二十三番札所  
関東三十六不動霊場第二十一番札所

## シモジマ店舗へ 是非ご来店下さい!

包装用品・学童文具・事務用品を  
各種取り揃えております

### 取扱い品目

包装紙・紙袋・化成品袋・ボックス  
ギフトカード・シール・POP用品  
店舗ディスプレイ用品・粘着テープ  
紐類・文具・事務用品・OA用品他

東京(浅草橋)・名古屋・大阪(心斎橋)他  
直営店舗がございます。  
詳しくはHPをご参照下さい。

夢を包み、心をつなぐ。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-29-8  
TEL 03-3864-0061 FAX 03-3865-4470  
<http://www.shimajima.co.jp/>

ニッポン製品卸

(株)富士商会

横山町4-15  
TEL 3663-8391

岩田 博(昭32)

(株)トーヨー  
東洋地産(株)

横山町6-13  
☎3663-9141~4

西沢 俊司(昭31)  
郷 (昭58)



—日本橋エリアの経営革新をサポート—

## 株式会社福水戸家

平成3年卒 代表取締役 磯部一郎  
連絡先：info@fukumitoya.co.jp

## 2022年(令和4年)校友会について

2022年(令和4年)の校友会総会は3年ぶりに母校で開催いたします。また会場にお越し頂けない皆様向けに、オンラインでの校友会を行います。母校やオンラインでの皆様のお越しをお待ちします。

開催日時：2022年5月22日(日)13:00～14:00

開 場：11:00(母校)、12:00(オンライン)

開催会場：久松小学校4F体育館、及び

オンライン配信(ZOOM Webinar)

オンライン総会の参加方法：

① 予め、パソコン、タブレット、スマートフォン等に「ZOOM」アプリ(無料)をダウンロードください。

② 当日、右上QRコードを読み込むか、アプリを開き、ミーティングID:820 6042 4900  
パスコード:462544 を入力ください。

③ 入室時はお名前に“卒年+名字(例R02久松)”を入力ください。

問い合わせ先:hisamatsu.es.koyukai@gmail.com

校友会からのお願ひ：

1) 母校で総会に出席される方は必ずマスクの着用をお願いします。

2) 会場に消毒用アルコールを準備します。ご活用ください。

3) コロナ禍により飲食物の販売、抽選会などのアトラクションはございません。ご理解とご協力をお願いします。

4) 感染状況によりオンライン総会のみに変更する場合がございます。

校友会当日に緊急事態宣言中の場合はオンライン総会になります。

変更の際は事前にホームページ(P.36のQRコード参照)、当日母校に掲示します。メールでの問い合わせもお受けします。



令和4年校友会

## 同期会

11:00～17:00の間、体育館や各教室で同期会を行えます。教室の使用をご希望の際は、当日校友会運営委員にお尋ねください。

## 久松小学校150周年行事基金についてのお願い

久松小学校は2023年(令和5年)3月9日に150周年を迎えます。

学校は2022年(令和4年)度に150周年行事を実施いたします。

校友会といたしましては栄えある150周年行事に祝意を表し、記念として、今までの周年式典写真のデジタル化と、校友会から寄贈した松の木などの手入れを行いたいと思っております。つきましては、皆様にご協力をお願いしたく、150周年行事基金を集めることと致しました。

また、校友会継続の為に校友会基金・年会費の納付を合わせてお願い申し上げます。

## 校友会総会ご招待券

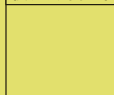
- ・ホームカミングは昭和45～47年卒
- ・二十歳の校友は平成24～26年卒
- ・新入会員は令和2～4年卒

の皆様、ご多忙とは存じますが、友達同士でお声がけを行い、お集まりください。

◎受付にこの招待状をお持ちください。

校友会よりささやかな記念品を贈呈いたします。

校友会確認印



中央区立久松小学校校友会